

令和6年度版

消防統計



熊石関内交流センター「まなびあん」併設 熊石消防団第2分団格納所を新築 令和6年12月竣工

八雲町消防本部

は し がき

この消防統計は、令和6年度中における八雲町の消防行政実施及び執行状況等を令和7年3月末現在で収録したものですが、消防現勢及び現況については、令和7年4月1日現在で集録したものであり、一部これによらないものについては当該表にそれぞれ記載する年月日で表しております。

この統計を防災の執務上の資料として、消防行政推進の参考にするとともに、消防関係機関をはじめ地域住民の防火に対する指針の参考となれば幸いに存じます。

令和7年8月

目 次

八雲日	町のおいたち、町花・町木・町鳥、位置及び範囲、地目別面積・・・・ 1	. '	\sim	2
	消防の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	}	\sim	8
熊石	消防の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	}	\sim	9
新「	八雲消防の沿革」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10	0 -	\sim	11
令和	6年度主要事業・行事及び実施事項・・・・・・・・・・ 1: 1:	2	\sim	13
	消防長、消防次長、八雲消防署長、熊石支署長・熊石消防署長・・・・			14
	八雲・熊石消防団長、八雲町連合消防団長・・・・・・・・・・・			15
<u> </u>				
庶	務			
1. 消	的防現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			16
(1)	消防組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			16
` ,				
2. 町	「勢と予算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			17
(1)	人口及び世帯数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			17
	町勢と消防現勢との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			17
	一般会計と消防費との比較(当初予算)・・・・・・・・・・・			17
	令和5年度消防費決算額の内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			17
	令和6年度消防費予算額の内訳(当初予算)・・・・・・・・・			17
(0)				٠.
3 淫	肖防職員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			18
	消防職員の定員及び配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・			18
	職員年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			19
	職員勤続年数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			19
	職員免許・資格等取得状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			20
	職員教育訓練状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			20
(5)	40000000000000000000000000000000000000			۷(
4 %	当防団員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			21
	消防団員の定員及び配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			21
	団員年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			21
	団員勤続年数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			22
	年報酬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
	出場報酬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			22
(5)	出場報酬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			22
L 971	ら防庁舎の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2:	n	_	0./
5. ₹F	1的庁舎の現代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	3	\sim	24
予	防			
	f定防火対象物の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			25
	b険物施設の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			26
	『高層建築物現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			27
	ト種届出等事務処理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			27
	達難訓練実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			27
	皇築同意の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			28
	建築同意処理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			28
(2)	建築通知受理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			28

7. 消防協力団体の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 29
(1) 消防後援会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 29
(2) 婦人消防防火クラブ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 29
(3) 防火協力団体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 29
(4) 自衛消防隊 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 29
災害	
1. 火災概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 30
(1) 火災統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 30
(2) 火災発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(3) 災害出動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(4) 過去10年間の火災統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 33
警防	
1. 消防施設の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 34
(1) 消防自動車等配置一覧図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(2) 消防機械現勢表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(3) 消防機器現有数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(4) 消防水利施設 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • 36
通信	
1. 消防通信施設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 37
(1) 消防通信施設内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 37
2. ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 38
(1) ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 38
(2) ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム受信状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 38
救 急 • 救 助	
1. 救急関係の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 39
(1) 過去5年間の救急出動の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 39
(2) 過去5年間の事故種別出動件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 39
(3) 事故種別傷病程度数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 40
(4) 年齢別搬送人員数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 40
(5) ドクターヘリ区分出動件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(6) 月別出動件数・搬送人員数 ・・・・・・・・・・・・・・	
(7) 管内・管外別搬送人員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(8) 救急講習会実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(9) 救急器具現有数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 42
2. 救助関係の概況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 43
(1) 救助出動の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 43
(2) 救助器具現有数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • 43

八雲町のおいたち

旧八雲町は開拓の祖、旧尾張藩主徳川慶勝卿が北海道開拓と併せて旧臣授産のため、遊楽部の土地の下付を願い出て明治11年、家族持15戸、単身者10名、総人員72名を移住させたことから本格的に開拓が進められた。これが、八雲町の組織的団体移住者のはじまりであった。その後年々移住する戸数が増加して明治14年黒岩とともに独立して八雲村となった。

その後国道の開通により、役場をはじめ各施設機関が漸次山越内村から八雲村に移り、明治35年北海道2級町村制施行により両村が併合して八雲村ができあがった。

明治36年に鉄道が開通し、同38年に片栗粉同業組合の設立により、澱粉製造業が急激に発展し、関西市場の覇権を握って"八雲片栗粉"の声価を博するようになった。

明治40年1級町村制施行となり、同年7月現在地に役場庁舎を新築移転した。

(当時の人口 10,565 人・戸数 2,103 戸)

明治44年雲石(八雲〜熊石間)、太櫓の二殖民道路の開通や産業の進展に伴い、町制施行に対する住民の 世論も高まり大正8年に待望の町制施行をみるに至った。

(参考 第1回国勢調査 大正9年10月、人口14,413人、世帯数2,762戸)

昭和32年懸案であった落部村との合併を実現した。

旧熊石町の開基は、鎌倉時代後期の永仁4年(1296年)に日蓮上人の六老僧の一人、日持上人がこの地に 足跡を残した時を持って定められている。

元禄 4 年(1691 年)には和人地エグ地の境界地として番所が相沼から熊石に移され、当時の日本国最北の地となったが、寛保元年(1741 年)に松前大島の噴火があり、村損壊の危機にさらされた。

しかし、永享元年(1744年)頃から再び有力者の移住により新たな村づくりが進められ、漁場の拡大等により=シンの千石場所として再び繁栄するようになった。

明治6年戸長、副戸長制度により熊石、泊川、相沼の3村に戸長が任命された。

明治35年北海道2級町村制が改正公布され、新しく熊石村として発足となった。

明治20年代頃まで村の産業経済の中心であったニシン漁は明治30年代以降不漁の年が多く、地域活力も低迷を辿り、大正時代にはニシン漁は皆無となったため仂漁、イワシ漁等への転換が行われた。

昭和35年、有史以来最も多くの人口1万人を数え、昭和37年には町制施行となり、高齢化や過疎化が進む中で、地域活性化のために農漁業の基盤整備や平地区の開発等が進められてきた。

平成17年10月1日、旧八雲町と旧熊石町が合併を実現した新「八雲町」が誕生した。

町花・町木・町鳥

◎ 町 花 『 ひ ま わ り 』 (平成19年4月 指定)

◎ 町 木 『 オ ン コ 』 (平成19年4月 指定)

◎ 町 鳥 『オオワシ』(平成19年4月 指定)

位置及び範囲

当町は、北海道の南部渡島半島の北部にあって渡島半島を横断し、東は内浦湾(太平洋)、西は日本海に面し、北は長万部町、今金町、せたな町、南は森町、厚沢部町、乙部町に接する位置にあります。

(令和6年1月1日現在)

面和	漬	位			置			範	囲	
		区 分	東	経	北	緯	東	西	南	北
		東 端	140° 2	7′ 24″	42° 10	′ 36″				
956. 08k r	n²	西 端	139° 5	5′ 14″	42° 08	′ 00″	11 1	29 km	41.3	21 lzm
		南端	140° 2	5′ 43″	42° 01	′ 23″	44. 4	29 KIII	41. 0	OI KIII
		北 端	140° 1	3′ 46″	42° 23°	′ 42″				

(資料:政策推進課)

地目別面積

(令和6年1月1日現在)

		面積	構成比率	所有内	訳(k m²)
		回 傾 (k m²)	件 以 上 学 (%)	※町所有	その他
総	数	956. 08	100.00	70. 50	885. 58
	田	4. 90	0.51	0.02	4. 88
	畑	61.72	6. 46	2.04	59. 68
宅	地	5. 77	0.60	0.87	4. 90
Щ	林	302. 61	31.65	36. 16	266. 45
牧	場	6. 44	0. 67	2.80	3. 64
原	野	47. 68	4. 99	12. 29	35. 39
雑	種 地	6. 84	0.72	0.72	6. 12
そ	の他	520. 12	54. 40	15. 60	504. 52

注:※に公道・水道・用悪水路等行政財産は算入しない。

(資料:財務課)

八雲消防の沿革

消防組時代

- 明治36年 6月 公設八雲消防組創設、創設時は組頭、小頭、喞筒係、鳶係、吸水係の45名で発足し初代組 頭に小川助次郎氏就任。施設については番屋1棟、火の見櫓1ヵ所、腕用ポンプ(ドイツ2号式)1台、半纏45枚、提灯45個、竹梯子2丁、馬簾及び消防旗、警鐘1個、大鳶15丁、手鳶5丁 ロープ・15間を装備し創設した。
- 大正 2年10月 八雲消防組2代目組頭に梅村多十郎氏就任。
 - 3年 7月 消防組を2部制とし、定員83名とする。2部器具置場(24.75㎡)を造築。
 - 10月 1部器具置場(24.75㎡)を造築。
 - 6年8月 野田生に私設消防組が創設、組員36名、腕用ポンプ (ドイツ式3号) 1台配置。
 - 7年 5月 八雲消防組と野田生私設消防組が合併し、八雲消防組を3部制とする。 定員118名、腕用ポンプ3台配置。
 - 10月 八雲消防組3代目組頭に鈴木永吉氏就任。
 - 8年 1月 八雲消防後援会創設。
 - 8月 町制を施行する。
 - 10年 2月 ガソリンポンプ (12馬力) を購入、第2部に配置。
 - 5月 手曳ガソリンポンプ(14馬力)を購入、第1部に配置。
 - 6月 八雲消防組4代目組頭に平野幸三郎氏就任。
 - 11年 5月 野田生消防組が八雲消防組から独立、初代組頭に鈴木秀明氏就任。
 - 12年 5月 落部私設消防組(落部1部、茂無部2部、腕用ポンプ各1台) 創設。
 - 13年 4月 黒岩私設消防組創設。
 - 4月 八雲消防組5代目組頭に黒川市松氏就任。
 - 12月 公設落部消防組創設、初代組頭に相木国太郎氏就任。
 - 15年 5月 ガソリンポンプ (ノーザン式23馬力) を購入、八雲消防組に配置更新。
- 昭和 3年○月 山越内私設消防組創設、器具置場(19.8㎡)を造築。
 - 11月 公設黒岩消防組創設、初代組頭に長谷川鎰氏就任。
 - 11月 私設黒岩消防組器具置場(49.5㎡)を改築。
 - 4年 4月 落部消防組2代目組頭に奥田鉾氏就任。
 - 4月 野田生消防組器具置場改築。
 - 5年10月 3部 (6年改組) 器具置場 (39.6㎡) を新築。
 - 6年 2月 野田生消防組2代目組頭に横田門四郎氏就任。
 - 4月 公設山越内消防組創設、初代組頭に坂田竹三郎氏就任。
 - 4月 八雲消防組を3部制とし、市街地の警備区域を設定する。
 - 7年 4月 黒岩消防組2代目組頭に松本久治氏就任。
 - 6月 初の消防ポンプ自動車(フォード森田式ウエヤーレス)を購入、八雲消防組第2部に配置。
 - 8月 ガソリンポンプ (ウエヤーレス) を購入、野田生消防組に配置。
 - 8月 自動車にガソリンポンプを積載(積載車第1号)、八雲消防組第1部に配置。
 - 10年○月 1部器具置場(46.2m²)を移転改築。
 - 9月 2部器具置場を移転改築。
 - 12月 三輪消防ポンプ自動車 (フォードV型) を購入、八雲消防組第3部に配置。
 - 11年 9月 落部消防組に初めての消防ポンプ自動車を配置。
 - 12月 野田生消防組3代目組頭に小川伊三郎氏就任。
 - 12年 6月 八雲消防組6代目組頭に小川太郎氏就任。

警防団時代

- 昭和14年 1月 勅令第20号により警防団令発布。
 - 3月 八雲消防組7代目組頭に米沢勇氏就任。
 - 4月 八雲、黒岩、山越、野田生の各消防組を八雲警防団に改組、八雲第一分団、黒岩第二分団、山越第三分団、野田生第四分団の4分団制とする。 定員284名とする。初代警防団長に米澤勇氏就任。
 - 4月 落部消防組を落部警防団に改組、初代警防団長に長谷川信義氏就任。
 - 18年10月 消防ポンプ自動車(V8フォード車、3段タービンポンプ)を購入、第一分団第1部に配置。
 - 11月 北海道庁長官より竿頭綬が授与された。
 - 19年12月 八雲警防団本部事務所兼第一分団第2部格納所(133.65㎡)を改築。
 - 20年○月 三分団(山越)器具置場(51.15㎡)八雲漁業会よりの寄附を受け移転。
 - 21年 7月 落部警防団2代目警防団長に櫛桁三五郎氏就任。

消防団時代

- 昭和22年 7月 落部警防団を落部村消防団に改組。初代消防団長に伊藤淳一氏就任。
 - 8月 消防団令制定に伴い、八雲警防団を八雲町消防団に改組、山崎警防団を第五分団として編 入、5分団3部制とする。初代消防団長に米澤勇氏就任。定員270名とする。第五分団(山崎)器具置場を改築。
 - 23年 3月 職員定数条例制定、条例定員20名とする。
 - 5月 八雲町消防団常備部を設置、4名で新体制発足。
 - 5月 ガソリンポンプ積載車(ニッサンNP180型)を購入、第一分団第1部に配置。
 - 12月 気象観測業務(甲種気象観測所)を開始。
 - 24年 4月 八雲町消防本部を設置。
 - 4月 八雲町消防団条例制定、条例定員187名とする。
 - 5月 初代消防長に米澤勇氏就任。
 - 7月 落部村消防本部を設置、定員3名とする。
 - 8月 消防ポンプ自動車(ニッサン180型)を購入、消防本部に配置。
 - 25年 4月 八雲消防組後援会が再結成され、その後各分団毎に逐次結成された。
 - 7月 落部村消防団2代目消防団長に大山勝悦氏就任。
 - 7月 消防ポンプ自動車(ニッサンNP680型)を購入、第一分団第2部に配置。
 - 26年○月 落部村消防本部庁舎(66㎡)を改築移転。
 - 10月 消防ポンプ自動車(フォードV型)を購入、第一分団第3部に配置。
 - 27年 4月 八雲町消防署を設置、初代消防署長に小林清氏就任。
 - 12月 消防ポンプ自動車(フォードV8)を購入、落部村消防団に配置。
 - 12月 小型ポンプ第1号(トーハツ、C-1級)を購入、落部村消防団に配置。
 - 28年 9月 八雲消防創設50周年記念式典を挙行。
 - 12月 初の水槽付消防ポンプ自動車(水2,500%、4WD)を購入、消防本部に配置。
 - 29年 3月 落部村消防団3代目消防団長に新谷義男氏就任。
 - 30年10月 第一分団第1部格納所を本町に移転改築。
 - 31年 2月 日本消防協会長より竿頭綬が授与された。
 - 6月 消防ポンプ自動車(ニッサン180型)を購入、落部村消防団に配置。
 - 10月 落部村消防本部庁舎改築移転(建築面積201.3㎡)及び鉄骨望楼(高さ20m)を建設。
 - 10月 指揮車(ウィリス)を購入、消防本部に配置。
 - 32年 4月 町村合併により八雲町消防団と落部村消防団が合併、落部第六分団、茂無部(栄浜) 第七分団、野田追(東野)第八分団の8分団制とする。条例定員285名とする。
 - 6月 第七分団格納所(建築面積64.68m²)を移転改築。
 - 33年 1月 落部簡易水道完成、消火栓11基新設。

- 昭和33年 3月 八雲消防後援会、国家消防本部より表彰される。
 - 9月 第三分団格納所(建築面積56.1㎡)を移転改築。
 - 9月 全道水防大会を八雲町遊楽部川河畔で開催する。
 - 34年 2月 日本消防協会長より表彰旗が授与された。
 - 9月 渡島地方消防総合訓練大会を当町で開催する。
 - 35年10月 第一分団第3部格納所(建築面積49.5㎡)を末広町に移転改築。
 - 11月 第八分団格納所(建築面積103.95㎡)を改築。
 - 36年10月 森町大火に消防ポンプ自動車2車両応援出動する。
 - 37年 4月 職員定数条例改正、定員を22名とする。
 - 5月 電話の自動化により火災報知専用電話(119番)の運用開始。
 - 10月 水槽付消防ポンプ自動車(水2,000%、小型付)を購入、消防本部に配置。
 - 38年 2月 連絡車(4WD、ランドクルーザー)を購入、消防本部に配置。
 - 7月 初の小型ポンプ積載車(第1号)を購入、第八分団に配置。
 - 39年 4月 職員定数条例改正、定員を25名とする。
 - 40年 3月 山崎婦人消防クラブ結成。
 - 4月 消防本部に庶務係、予防係、警防係の3係を設ける。
 - 5月 八雲町危険物安全協会設立。
 - 5月 野田追浜婦人消防クラブ結成。
 - 5月 団員階級準則の改正により各分団に副分団長を配属する。
 - 5月 日赤八雲分区より救急車(1B型、スタウト)の配車を受け、救急業務を開始する。
 - 6月 八雲町防火管理者協会設立。
 - 41年 2月 落部川向、落部入沢婦人消防クラブ結成。
 - 5月 内浦婦人消防クラブ結成。
 - 6月 茂無部婦人消防クラブ結成。
 - 9月 隣接町村との相互応援協定を締結。
 - 12月 第五分団格納所(建築面積122.3㎡)を移転改築。
 - 12月 八雲上水道完成、消火栓64基を新設。
 - 42年 2月 本町婦人消防クラブ結成。
 - 5月 東町婦人消防クラブ結成。
 - 6月 消防本部に機械係を設ける。
 - 9月 第二分団格納所(建築面積780.26㎡)を町内会館、保育所併設で移転改築。
 - 10月 消防本部庁舎(建築面積810.816㎡)を移転改築。
 - 43年 3月 末広町婦人消防クラブ結成。
 - 4月 広報車を購入、消防本部に配置。
 - 10月 第三分団格納所 (建築面積158.7㎡) を移転改築。
 - 10月 消防ポンプ自動車(更新)を購入、第一分団第3部に配置。
 - 44年 6月 農業気象観測を開始。
 - 8月 空気呼吸器を購入、消防署各車両に積載。
 - 9月 第一分団第1部格納所(建築面積64.8㎡)を改築。
 - 10月 消防ポンプ自動車(更新)を購入、第一分団第1部に配置。
 - 11月 日赤八雲分区より救急車(1B型、クラウン)の配車。
 - 45年 2月 消防専用無線電話装置を本部及び車両に装備開局。
 - 10月 小型動力ポンプ付積載車を購入、第六分団に配置。
 - 12月 第四分団格納所(建築面積80.1㎡)を移転改築。
 - 12月 第六分団川向器具置場(建築面積94.77㎡)を新築。
 - 46年 9月 職員定数条例改正、定員を28名とする。
 - 12月 水槽付消防ポンプ自動車(更新)(タンク1号車)を購入、消防本部に配置。
 - 47年12月 小型動力ポンプ 付積載車 (更新)を購入、第八分団に配置。
 - 48年 3月 消防団条例改正、定員を260名とする。

- 昭和48年 4月 水利巡視車 (更新) (4WD、ジープ) を購入、消防本部に配置。
 - 10月 第七分団格納所(建築面積155.5㎡)を改築。
 - 11月 広報車(更新)(セドリックバン)を購入、消防本部に配置。
 - 49年 4月 栄浜地区に簡易水道完成、消火栓5基新設。
 - 6月 渡島管内水防工法訓練大会を八雲町で開催する。
 - 50年12月 第二分団格納所(建築面積81㎡)を移転改築。
 - 51年 3月 消防庁長官より消防本部、消防団に竿頭綬が授与された。
 - 7月 サイレン遠隔吹鳴装置(本部、役場)を設置。
 - 9月 小型動力ポンプ 付積載車 (更新) を購入、第三分団に配置。
 - 52年10月 小型動力ポンプ 付積載車(更新)を購入、第二分団に配置。
 - 12月 落部分遣所兼第六分団格納所(建築面積335.34㎡)を改築。
 - 12月 落部分遣所に無線基地局を開局。
 - 53年 6月 消防団条例改正、定員を240名とする。
 - 6月 職員定数条例改正、定員を30名とする。
 - 7月 北海道消防操法訓練大会に初出場。
 - 11月 野田生地区に簡易水道完成、野田生、東野、山越に消火栓21基新設。
 - 11月 水槽付消防ポンプ自動車(更新)(タンク2号車)を購入、消防本部に配置。
 - 12月 第二分団大川地区器具置場を新築。
 - 12月 日本損害保険協会より救急車(救急1号車)1台寄贈。
 - 12月 小型動力ポンプ 付積載車 (更新)を購入、第五分団に配置。
 - 54年10月 サイレンの遠隔吹鳴装置を各分団に設置。
 - 11月 小型動力ポンプ付積載車(更新)を購入、第七分団に配置。
 - 55年 4月 職員定数条例改正、定員を36名とする。
 - 7月 野田生婦人消防クラブ結成。
 - 7月 渡島地方消防総合訓練大会を当町で開催、消防操法の小型ポップの部で初優勝。
 - 11月 小型動力ポンプ付積載車(更新)を購入、第四分団に配置。
 - 12月 消防署の組織に関する規程を制定、消防署に西分署、落部分遣所を設ける。
 - 12月 消防署西分署及び第一分団第3部格納所(建築面積419.69㎡)を西部地区会館と併設で建設。
 - 56年 3月 職員定数条例改正、定員を39名とする。
 - 6月 優良婦人消防隊として山崎婦人消防クラブが北海道消防協会長より表彰される。
 - 11月 水槽付消防ポンプ自動車(更新)(タンク1号車)を購入、消防本部に配置。
 - 11月 日本消防協会より山崎婦人消防クラブに軽可搬ポンプが寄贈された。
 - 12月 山越婦人消防クラブ結成。
 - 57年 4月 副団長を4名とする。
 - 58年 1月 黒岩簡易水道完成、消火栓9基新設。
 - 3月 消防庁長官より消防本部、消防団に表彰旗が授与された。
 - 11月 小型動力ポンプ 付水槽車(水10,000%) を購入、消防本部に配置。
 - 59年 6月 消防創基80周年記念式典挙行。
 - 10月 指令車(クラウンワゴン)を購入、消防本部に配置。
 - 12月 第五分団格納所(建築面積263.17㎡)を移転改築。
 - 12月 第八分団格納所(建築面積262.76㎡)を移転改築。
 - 60年 1月 八雲町消防設備協会設立。
 - 5月 水利巡視車 (更新) (4WDバン) を購入、消防本部に配置。
 - 10月 消防訓練塔(ビデ組立式、高さ16.6m)を建設。
 - 61年 4月 八雲消防署に救急係を設ける。
 - 10月 北海道救急医療情報システム運用開始。
 - 11月 水槽付消防ポンプ自動車(水1,500゚¦ぇ、4WD)を購入、第六分団に配置。
 - 62年 9月 消防団条例改正、定員を220名とする。
 - 10月 小型動力ポンプ付積載車(更新)(4WD)を購入、第八分団に配置。

- 昭和62年11月 救急車(更新) (2B型、4WD) を購入、消防本部に配置。
 - 63年 4月 消防署に当直司令を設ける。
 - 4月 八雲町消防団員の定年に関する定め施行される。
 - 12月 第七分団格納所(建築面積267.07㎡)を改築。
- 平成元年 4月 第一分団を東分団、西分団に分轄。
 - 7月 救急指定病院に八雲総合病院(町内第1号)が指定。
 - 8月 全道消防救助技術訓練指導会に初参加。
 - 8月 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車寄贈、消防本部に配置。
 - 12月 消防ポンプ自動車(更新)を購入、第六分団に配置。
 - 12月 第三分団格納所(建築面積289.775㎡)を移転改築。
 - 2年 2月 桧山広域行政組合と消防相互応援協定の締結。
 - 11月 消防ポンプ自動車(更新)を購入、西分団に配置。
 - 12月 第四分団格納所(建築面積111.54㎡)を改築。
 - 3年 4月 北海道広域消防相互応援協定の施行。
 - 6月 救急用自動車電話運用開始。
 - 7月 消防本部、消防署の機構改革を行い、消防長を消防監とし管理課(庶務係、救急係)消防課 (予防係、警防係)の二課制とする。
 - 12月 消防ポンプ自動車(更新)を購入、東分団第1部に配置。
 - 4年 6月 消防無線電話装置(落部分遣所第二装置)を購入。
 - 8月 全国消防救助技術大会に出場。
 - 5年7月 八雲消防創設90周年記念として消防ふれあい広場を挙行。
 - 10月 東分団格納所(建築面積115.679㎡)を移転改築。
 - 10月 ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム運用開始。
 - 6年 7月 北海道消防操法訓練大会に出場優勝。(実放水大会、第六分団)
 - 7月 防災功労(南西沖地震応援出動)により消防庁長官から表彰状を受賞。
 - 10月 全国消防操法大会に第六分団が出場。
 - 8年 2月 小型動力ポンプ付積載車(1,000%水槽付)(更新)を購入、第三分団に配置。
 - 8月 全国消防救助技術大会に出場。
 - 10月 消防職員委員会の発足。
 - 9年2月 小型動力ポンプ付積載車(1,000゚ポス水槽付)(更新)を購入、第二分団に配置。
 - 6月 広報車(更新)(ニッサン ウイングロード4WD)を購入、消防本部に配置。
 - 7月 渡島地方消防総合訓練大会を当町で開催、消防操法のポンプ車・小型ポンプの部優勝。
 - 11月 救急救命士(職員第1号)が誕生する。
 - 11月 高規格救急車(イスズ スーパーメディック4WD)を購入、消防本部に配置。
 - 10年 3月 小型動力ポンプ付積載車(1,000%ス水槽付)(更新)を購入、第五分団に配置。
 - 7月 開町120年、消防創設95周年記念として消防ふれあい広場を開催。
 - 9月 救急救命士業務運用開始。
 - 11年 3月 小型動力ポンプ 付積載車(1,000ポス水槽付)(更新)を購入、第七分団に配置。
 - 6月 北海道共済農業協同組合連合会より救急車(2B型) 寄贈、消防本部に配置。
 - 12月 第五分団格納所(建築面積111.5㎡)を移転改築。
 - 12月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型(更新)を購入、消防本部に配置。
 - 12年 3月 サイレン遠隔吹鳴装置を本部主装置に更新。
 - 3月 小型動力ポンプ付積載車(1,000゚スス水槽付)(更新)を購入、第四分団に配置。
 - 8月 有珠山噴火災害に対し消防庁長官より褒状受賞。
 - 13年 3月 小型動力ポンプ付積載車(1,000%水槽付)(更新)を購入、第八分団に配置。
 - 4月 管理課に企画係を新しく置き、救急係を消防課に配置替え。
 - 4月 東分団を第一分団と東分団に編成替えする。
 - 4月 消防団員で50歳以上を対象に短期人間ドック開始(13年度19名実施)

- 平成13年 4月 救急救命士の生涯学習として八雲総合病院で実習開始。
 - 5月 女性消防団員が入団。15名を団本部所属とした。
 - 14年 6月 北海道消防協会長より竿頭綬が授与された。
 - 6月 日本消防協会より軽可搬消防ポンプの助成。団本部(女性消防団員)に配置。
 - 15年 1月 八雲消防創設100周年記念式典を挙行。
 - 6月 苫小牧出光興産石油コンビナート災害の応援出動に対し北海道知事より表彰状を受賞。
 - 12月 「八雲消防100年のあゆみ」を550部発刊。
 - 12月 第二分団格納所改築(平屋建123.94m²)
 - 12月 指令車(更新) (トヨタ レジアスエース)を購入、消防本部に配置。
 - 16年 3月 全国消防救助技術大会に出場。(兵庫県三木市)
 - 8月 二相性自動体外式除細動器 (AED) の購入。
 - 9月 水利巡視車を購入、第六分団に配置。
 - 17年 2月 熊石町と町村合併。

熊石消防の沿革

- 明治17年 5月 熊石、相沼内、泊川の三村が私設消防組を結成、土谷掟太郎が有志として協力、私設消防組 (創設) 防火警戒の任にあたる。
 - 28年 2月 (勅令15号消防規則の公布)熊石消防組(公設)2部制を発足。第1部を根崎、第2部を相沼に置く。
- 明治31年〇月 「公設消防組創設」村役場に本部を設ける。
- 大正元年 9月 フランス型甲号蒸気ポンプ1台(寄附金400円)を購入し村の防火体制を強化する。
 - 10月 火災予防組合設立、中歌(根崎)以東、掛潤(雲石)以西、泊川、相沼の4組合に分ける。
- 昭和2年9月 北海道警察部長より認許状が授与された。
 - 12年10月 熊石消防組が改編されて熊石村防護団となる。
 - 14年 4月 勅令警防団令の発布により、熊石村警防団に改組。
 - 6月 内務大臣より警防団旗が授与された。
 - 22年 4月 勅令185号消防団令が公布施行、警防団は消防団に改組。2分団制を施行。(第一分団を根崎第一分団を相沼)
 - 8月 消防組織法の公布施行により、熊石村警防団を熊石村消防団に改称。
 - 28年 2月 消防ポンプ自動車 (ダッツジープ改装) 1台購入 (寄付金200万円) 第一分団に配置。
 - 30年 1月 北海道消防協会長より消防団員の規律厳粛と技能熟達に対し表彰状が授与された。
 - 33年11月 函館方面江差警察署長より人命救助に対し感謝状が授与された。
 - 35年11月 普通消防ポンプ自動車(トヨタキャリャー四輪駆動)購入、第二分団に配置。
 - 37年 5月 町制により熊石町消防団に改称(第一分団を見日~関内・第二分団を折戸~泊川)組編。
 - 8月 熊石町消防団第二分団庁舎新築。(字館平、木造モルタル造92.0㎡2階建)
 - 40年 4月 江差信用金庫より普通消防ポンプ自動車(トヨタ A-2)1台寄贈、第一分団に配置。
 - 41年 1月 北海道知事より竿頭綬が授与された。
 - 7月 北海道消防協会檜山地方支部長より無火災による表彰状が授与された。
 - 11月 水槽付消防ポンプ自動車(トヨタ A-2、2t)1台購入、第一分団に配置。
 - 43年11月 北海道知事より表彰旗が授与された。
 - 49年 1月 熊石町消防団規則一部改正により2分団制を4分団制に改編。
 - (第一分団を見日~雲石、第二分団を鳴神~関内、第三分団を折戸~相沼、第四分団を館平 ~泊川)定員130名。
 - 4月 檜山広域消防組合設立。檜山広域消防組合消防署熊石支署(職員7名)初代支署長濱野政志就任、熊石支署館平分遣所(常直職員1名)(派遣職員4名)檜山広域消防組合熊石町消防団に改称。
 - 9月 消防用無線電話購入。(基地局1台·移動局10W2台·携帯局2台開局)
 - 50年 6月 第四分団、泊川機械器具置場新築。(木造亜鉛平屋建10m²)
 - 10月 小型動力ポンプ付積載車1台購入(ラビットP405-S型)第四分団に配置。

- 昭和51年 4月 救急業務を開始する。(日赤救急車支署に配置)
 - 9月 小型動力ポンプ付積載車1台購入(ラビットP405-S型) 第二分団に配置。
 - 10月 日本損害保険協会より救急自動車寄贈(トヨタ ハイエース 2B型)支署に配置。
 - 11月 関内地区に第二分団積載車車庫新築。(木造モルタル28.35㎡)
 - 53年 5月 広報連絡車1台購入。(トヨタ コロナバン 1,800CC 広報装置一式装備)
 - 10月 水槽付消防ポンプ自動車1台購入。(日野A-2・水槽2t)
 - 11月 関内地区に消火栓5基設置。
 - 54年 2月 日本消防協会長より竿頭綬が授与された。
 - 55年 3月 消防庁長官より竿頭綬が授与された。
 - 8月 北海道消防操法訓練大会に熊石町消防団出場。(ポンプ車操法の部)
 - 56年 6月 檜山管内消防総合訓練大会が開催。(熊石町)
 - 11月 熊石支署消防庁舎落成。(鉄筋コンクリート2階建・延面積613.95㎡)
 - 57年 3月 空気呼吸器 (ライフゼム8L型) 一器購入。
 - 8月 役場庁舎屋上に消防サイレン (阪国・三相用モーターサイレン)設置。
 - 58年11月 普通消防ポンプ自動車1台購入。(いすずCD-2型)
 - 11月 小型動力ポンプ1台購入(トーハツB-3級)見日機械器具置場に配置。
 - 59年10月 熊石町消防団員条例定数改定。(130名を115名に改定)
 - 60年 6月 消防指令車1台購入(トヨペット)拡声装置一式装備。
 - 7月 小型動力ポンプ1台購入(トーハツB-3級) 泊川機械器具置場配置。
 - 61年 7月 日本赤十字社北海道支部より救急自動車(2B型) 寄贈。
 - 10月 北海道救急医療情報システム運用開始。
 - 62年10月 水力発電施設周辺地域交付金により相沼地区に消防サイレン塔(阪国・三相モーターサイレン)設置。
 - 11月 小型動力ポンプ付大型水槽車(いすずⅡ型)1台購入。支署に配置。
 - 63年 7月 小型動力ポンプ1台購入(ラビットB-3級)折戸機械器具置場配置。
 - 12月 関内地区に消防用サイレン塔(阪国・三相モーターサイレン)設置。
- 平成元年12月 消防車々庫新築。(相沼·泊川分遣所鉄骨造一部2階建 166.50㎡。)
 - 2年 6月 熊石町消防団、団旗購入。
 - 7月 組織変更に伴い檜山広域行政組合熊石消防署となる。
 - 3年 6月 北海道消防協会長より表彰旗が授与された。
 - 8月 消火栓新設工事6基。(雲石地区、岸田・根崎地区、林・畳岩地区、振興会館前・相沼地区、 木村・折戸地区、西村、寺井)
 - 4年 7月 熊石町消防団、北海道消防操法訓練大会出場(小型ポンプ操法の部)準優勝。
 - 5年 1月 北海道消防協会長より消防新聞(全団員)購読に対して感謝状が授与された。
 - 9月 小型動力ポンプ付積載車1台購入(トーハツB-2級)第三・四分団に配置。
 - 6年 7月 第二分団積載車々庫改修工事。
 - 12月 小型動力ポンプ付積載車1台購入(トーハツB-2級)第二分団に配置。
 - 7年 3月 消防庁長官より表彰旗が授与された。
 - 6月 消防指令車購入。(トヨタハイエース スーパーGL、4WD)
 - 8年 6月 檜山管内消防総合訓練大会が開催。(熊石町)
 - 7月 救急車購入。(トヨタハイエース フルタイム4WD、2B型)
 - 12月 小型動力ポンプ1台購入(トーハツB-3級)見日機械器具置場配置。
 - 9年 9月 小型動力ポンプ1台購入(トーハツB-3級)西浜機械器具置場配置。
 - 10年 3月 消火栓新設工事1基。(根崎地区)
 - 6月 小型動力ポンプ 2台購入(トーハツB-3級)相沼水防倉庫、消防署に配置。
 - 10月 水槽付消防ポンプ自動車1台購入。(日野・水Ⅱ型水槽5t)
 - 10月 油圧救助器具積載。
 - 12年 4月 相沼·泊川分遣所 委託業務開始。
 - 14年 4月 熊石町消防団員条例定数改定。(115名を105名に改定)
 - 17年10月 八雲町と町村合併。

新「八雲消防」の沿革

- 平成17年10月 平成17年10月1日、旧八雲町と旧熊石町と合併し、新「八雲町」となる。 消防は、熊石消防署が檜山広域行政組合より脱退し、八雲町消防本部に編入、八雲消防署 と熊石消防署の2署となり、消防団は、八雲消防団と熊石消防団の2団体制となる。
 - 10月 全国共済農業協同組合連合会北海道本部より救急自動車(2B型)寄贈。
 - 12月 落部分遣所火災報知専用電話(119番)を消防本部に集約。
 - 18年 1月 携帯電話119番通報の受信開始。
 - 6月 北海道消防協会長より八雲消防団に表彰旗が授与された。
 - 7月 ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム熊石地区運用開始。
 - 19年 4月 岡嶋敏夫団長が北海道消防協会渡島地方支部支部長に就任。
 - 5月 二相性自動体外式除細動器(AED)の購入、熊石消防署に配置。
 - 20年 5月 二相性自動体外式除細動器 (AED) の購入、八雲消防署に配置。
 - 7月 株式会社ffヤママル長谷川水産より寄贈の水利巡視車(小型動力ポンプ積載型軽消防車)を落部 分遣所に配置。
 - 7月 落部分遣所サルンを消防本部遠隔吹鳴装置に集約。
 - 11月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型(救助資機材積載型)(更新)を購入、西出張所に配置。
 - 21年 6月 二相性自動体外式除細動器 (AED) を宝くじの普及広報事業の助成を受け購入。 熊石消防署に配置。
 - 7月 財団法人日本防火協会の助成を受け、模擬消火訓練装置を購入。
 - 10月 全国共済農業協同組合連合会北海道本部より救急自動車(2B型)寄贈。高規格救急車 に追加艤装し落部出張所に配置、分遣所から出張所に改組。
 - 22年 4月 職員定数条例改正、定員55名とする。
 - 4月 岡嶋敏夫団長が北海道消防協会副会長に就任。
 - 7月 渡島地方消防総合訓練大会を当町で開催。小型ポンプ操法の部出場。(八雲消防団)
 - 7月 北海道消防操法訓練大会ポンプ車操法の部出場。(八雲消防団東西第一分団選抜)
 - 8月 全国消防救助技術大会ロープ応用登はんの部に出場。(京都市)
 - 23年 3月 東日本大震災により北海道緊急消防援助隊道西地区隊として派遣。宮城県石巻市へ救急支援活動。
 - 10月 消防本部庁舎を内浦地区に移転新築。(延べ面積 2,355.49㎡)
 - 10月 庁舎落成記念放水訓練大会を開催。
 - 12月 消防指令車の購入(トヨタハイエース4WD)、熊石消防署に配置。
 - 12月 消防ポンプ自動車の購入(CD-I型)、相沼泊川分遣所に配置。
 - 24年 3月 全国瞬時警報システム(J-ALERT)を消防本部に設置。
 - 8月 全国消防救助技術大会ロープ応用登はんの部に出場。(東京都)
 - 11月 高規格救急車の購入、八雲消防署に配置。
 - 25年 3月 旧消防本部庁舎の解体撤去。
 - 26年 3月 八雲消防署西出張所閉鎖(平成26年4月1日から八雲消防団西分団格納所へ移行)
 - 11月 全国共済農業協同組合連合会北海道本部より救急自動車(2B型) 寄贈。高規格救急自動車 に追加艤装、平成27年3月八雲消防署に配置し八雲救急2号車を更新。
 - 28年 3月 消防救急デジタル無線設備整備。(緊急消防援助隊設備整備費補助事業)
 - 3月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型(水2,000゚ポ、CAFS搭載)を購入、八雲消防署に配置。 (防衛省八雲分屯基地周辺消防施設設置助成事業)
 - 8月 全国消防救助技術大会はしご登はんの部に出場。(愛媛県)
 - 12月 八雲地区耐震性貯水槽整備。60㎡型1基·40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 12月 高規格救急車の購入。熊石消防署に配置。
 - 29年 8月 全国消防救助技術大会はしご登はんの部に出場。(宮城県)
 - 8月 小型動力ポンプ 1台購入(トーハツB-2級)折戸機械器具置場配置。
 - 12月 消防指令車の購入。(トョタハイエース、4WD) 八雲消防署に配置。
 - 12月 熊石地区耐震性貯水槽整備。100㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)

- 30年 9月 胆振東部地震により北海道広域消防相互応援隊として派遣。厚真町で行方不明者の捜索活動。
 - 11月 八雲積載車の購入。(トョタダイナ) 八雲消防署に配置。
 - 11月 熊石地区耐震性貯水槽整備。40 m³型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 12月 小型動力ポンプ 付積載車の購入。熊石第四分団に配置。
- 31年 1月 八雲地区耐震性貯水槽整備。40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 1月 消防救急デジタル無線関内簡易基地局の増設。
 - 2月 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型(水2,000゚ス゚)の購入。八雲東分団に配置。 (防衛省八雲分屯基地周辺消防施設設置助成事業)
 - 4月 消防本部、消防署の機構改革を行い、庶務課(庶務係、消防団係、企画係)警防救急課 (警防係、救急係、通信指令係)予防課(予防係、危険物係、査察指導係)の三課制となる。
- 令和元年 8月 ドクターヘリ離発着場及び訓練場用地購入。
 - 12月 八雲地区耐震性貯水槽整備。40m³型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 2年 1月 高規格救急車の購入。熊石消防署に配置。
 - 1月 熊石地区耐震性貯水槽整備。40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 2月 小型動力ポンプ 付積載車の購入。熊石第二分団に配置。
 - 3月 小型動力ポンプ付大型水槽車の購入。八雲消防署に配置。
 - 9月 熊石地区耐震性貯水槽整備。40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 9月 八雲地区耐震性貯水槽整備。40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 11月 ドクターヘリ離発着場及び訓練場整備・運用開始。
 - 3年 3月 小型動力ポンプ付大型水槽車の購入。熊石消防署に配置。
 - 3月 消防ポンプ自動車CD-I型の購入。八雲第六分団に配置。
 - 10月 八雲地区耐震性貯水槽整備。40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 11月 八雲地区耐震性貯水槽整備。40 m³型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 4年 1月 消防ポンプ自動車CD-I型の購入。八雲西分団に配置。 (防衛省八雲分屯基地周辺消防施設設置助成事業)
 - 2月 熊石消防署相沼・泊川分遣所を熊石相沼和みの家(相沼地区)と併設で移転新築。 (建物延べ面積318.82㎡ 消防格納庫89.95㎡)
 - 3月 NET119(聴覚・言語機能障害者用通報システム)設備の設置。
 - 3月 119通信受付指令設備の更新。(多言語通訳サービス追加)
 - 7月 本部庁舎事務室、消防長室にエアコン設置。
 - 11月 八雲地区耐震性貯水槽整備。40㎡型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 12月 八雲地区耐震性貯水槽整備。60m³型1基(消防防災施設整備費補助事業)
 - 5年 3月 指揮車の購入。八雲消防署に配置。
 - 3月 高規格救急車の購入。八雲消防署に配置。
 - 6月 渡島地方消防総合訓練大会を当町で開催。小隊訓練の部出場。 (八雲消防団) 小型ポンプ操法の部出場。 (熊石消防団)
 - 8月 落部出張所にシャワー室設置。
 - 6年 4月 職員定数条例改正、定員60名とする。
 - 7月 指導救命士養成及び運用開始。 (養成施設:福岡県 救急救命士九州養成所)
 - 8月 全国消防救助技術大会渡過の部に出場。(千葉県) 小型動力ポンプ 1台購入(トーハツB-2級)熊石消防団第1分団 熊石消防署車庫へ配置。
 - 12月 熊石消防団第2分団格納所を熊石関内交流センターまなびあんと併設で移転新築。 (建物延べ面積278.24㎡ 消防格納所58.42㎡)
 - 7年 3月 消防救急デジタル無線関内簡易無線基地局移設工事。 関内積載車車庫から関内地区会館併設消防格納所へ移設。

令和6年度主要事業・行事及び実施事項

月日	行事・実施事項	場所	内容
4/20~ 4/30	春の火災予防運動	管内全域	八雲地域 街頭防火宣伝、防火広報 熊石地域 防火パレード、消火訓練、予防査察、防災無線による広報
4/27	市街地分団模擬火災訓練 (東・西・1分団)	八雲町消防本部	消防団員 20名(東分団 4名 西分団 5名 1分団 4名 団本部 7名) 職員 6名 総人員 26名
5/12	熊石消防団春季消防訓練	熊石漁港ふれあ い広場	消防団員 37名 職員 7名 総人員 44名 ※小隊訓練及び放水訓練
5/22~ 7/2	指導救命士養成研修	福岡県救急救命 九州研修所	職員1名派遣
6/2~ 6/8	危険物安全週間	管内全域	危険物施設等への立入検査 八雲署61施設 熊石署7施設
6/16	令和6年度 八雲町消防総合訓練大会	八雲町消防本部	消防団員 114名(八雲 84名 熊石 30名) 来賓 19名 職員 33名 総人員 166名 ※雨天のため、消防本部車庫内にて実施
6/22	令和6年度 渡島地方消防総合訓練大会	北斗市運動公園 多目的広場	消防団員 30名(八雲 12名 熊石 18名) 来賓 3名 職員 13名 総人員 46名 ※小型ポンプ操法 八雲消防団 5名 小隊訓練 熊石消防団 13名
6/24	救急・救助資機材整備更新事業	八雲消防署	高度救命処置シミュレーター人形 一式
6/26	救急・救助資機材整備更新事業	八雲消防署	自動体外式除細動器 2台
7/12~ 7/13	令和6年度 北海道消防操法訓練大会	北海道消防学校	消防団員 8名 (八雲 6名 熊石 2名) 職員 3名 総人員 11名
7/13	第52回 全道消防救助技術訓練指導会	札幌市消防学校	ロープブリッジ渡過 2名 ロープ応用登はん 2名 出場
7/17	消火栓取替工事	東雲町	双口消火栓から単口消火栓へ取替(八雲中学校前)
8/23	第52回全国消防救助技術大会	千葉県消防学校	ロープブリッジ渡過 1名 出場
8/27	小型動力消防ポンプ購入事業	熊石消防署	熊石消防団 第1分団小型動力消防ポンプ1台
8/30~ 8/31	第76回北海道消防大会	余市町総合体育館	八雲・熊石消防団長 2名 職員 3名 総人員 5名
9/1	八雲町消防団放水訓練大会	八雲町消防本部	消防団員 88名(八雲 67名 熊石 21名) 職員 31名 来賓 8名 一般参観 20名 総人員 147名
9/14	救急医療週間	八雲消防署 熊石消防署	普通救命講習開催(八雲消防署 8名 熊石消防署 2名)
9/25~ 9/30	移動タンク貯蔵所立入検査	八雲町消防本部	八雲町許可施設について実施 34施設
10/9	令和6年度北海道高速自動車 国道事故等対策訓練	道央自動車道 八雲IC駐車場内	職員(訓練参加者) 32名 森町消防本部 7名 長万部町消防本部 3名 北海道警察函館方面本部交通課 3名 東日本高速道路株式会社北海道支部 2名 八雲総合病院 4名 八雲町役場 9名 来賓 15名 参観者 58名 総人員 133名
10/15~ 10/31	秋の火災予防運動	管内全域	八雲地域 防火広報、火災予防書道コンクール 熊石地域 防火パレード、消火訓練、予防査察、防災無線による広報
10/18	救急・救助資機材整備事業	熊石消防署	マルチカッター 一式

令和6年度主要事業・行事及び実施事項

月 日	行事・実施事項	場所	内容
10/20	模擬火災訓練 (3・4分団)	野田生会館付近	消防団員 18名(3分団 7名 4分団 9名 団本部 2名) 職員 4名 総人員 22名
10/30	模擬火災訓練(2・5分団)	山崎漁港付近	消防団員 18名(2分団 11名 5分団 4名 団本部 3名) 職員 3名 総人員 21名
10/31	消防職員・団員安全装備品 整備更新事業	八雲町消防本部	職員 保安帽他付属品 44個 団員 消防団員用保安帽、防塵メガネ、ヘッドライト 各124個
11/2	模擬火災訓練(6・7・8分団)	栄浜漁港付近	消防団員 26名(6分団 8名 7分団 4名 8分団 13名 団本部 1名) 職員 4名 総人員 30名
11/3~ 11/17	一般家庭防火査察	熊石全域	参加団員 47名
11/7	救急技術向上訓練	函館アリーナ	八雲消防署から救急隊1隊出場
11/18~ 11/22	高齢者一人暮らし世帯防火訪問	八雲地域	高齢者一人暮らし世帯の防火訪問 464世帯
11/30	消防団員被服更新事業	熊石消防署	消防団員用防寒衣 熊石消防団 75着
12/9~ 12/13	歳末特別査察	八雲地域	大規模店舗特別査察 11件
12/13	消火栓取替工事	野田生	双口消火栓から単口消火栓へ取替(幸村宅前)
12/23	消防格納庫等整備改修事業	熊石関内地区	熊石消防団第2分団格納所(地域会館併設) 契約・着工 6/10 竣工 12/10 開所式は令和7年度実施
12/25	救急・救助資機材整備更新事業	八雲消防署	空気呼吸器 3台
12/26	防火訪問	八雲地域	夜間営業飲食店 62件
12/27	救急・救助資機材整備更新事業	八雲消防署	空気呼吸器用ボンベ 5本
12/28~ 12/30	年末火災特別警戒	熊石全域	消防車両による警戒広報及び防災無線による広報 延出動人員 41名
R7 1/6	八雲町消防出初式	八雲町総合保健 福祉施設 シルバープラザ	消防団員 79名 職員 17名 来賓 46名 総人員 142名
1/28	消防職員被服更新事業	八雲町消防本部	救助服型活動服 51着
2/17~ 2/21	高齢者一人暮らし世帯防火訪問	八雲地域	高齢者一人暮らし世帯の防火訪問 495世帯
3/7	消火栓移設工事	栄町	単口消火栓移設工事 (エンジョイライフ前)
3/13	無線基地局移設工事	熊石関内地区	関内簡易無線基地局移設工事 関内積載車車庫から関内地区会館併設消防格納所へ移設
3/14	消防団員安全装備品整備更新事業	熊石消防署	消防団員用防火衣 熊石消防団 75着

歴代消防長・消防次長・消防署長

<u> </u>			(14 1B (1 17) 1 B (1 1 1 1)
歴 代	氏 名	就任年月日	退任年月日
初 代	米 澤 勇	昭和24年 5月 1日	昭和26年12月14日
二代	佐久間 省 一	昭和26年12月24日	昭和38年3月1日
三 代 (事)	田仲孝一	昭和38年 3月26日	昭和46年 4月30日
四 代 (事)	北 口 盛	昭和46年 5月 1日	昭和56年3月31日
五 代	野 口 精 一	昭和56年 4月 1日	平成元年 3月31日
六 代	長谷川 和 男	平成元年 4月 1日	平成 3年 3月31日
七 代 (事)	水 野 渉	平成 3年 4月 1日	平成 6年 3月31日
八代	水口五郎	平成 6年 4月 1日	平成11年 3月31日
九 代	新 田 義 弘	平成11年 4月 1日	平成15年 3月31日
十 代	佐 藤 太一郎	平成15年 4月 1日	平成 17年 9月30日 (町村合併による)
初 代	II.	平 成 17 年 10 月 1 日 (町村合併による)	平成20年 3月31日
二代	板 木 圭 司	平成20年 4月 1日	平成26年 3月31日
三代	大 泉 達 雄	平成26年 4月 1日	平成28年 3月31日
四代	櫻 井 功 一	平成28年 4月 1日	平成31年 3月31日
五代	大 渕 聡	平成31年 4月 1日	令和 5年 3月31日
六 代	堤 口 信	令和 5年 4月 1日	令和 7年 3月31日
七代	河 井 治 彦	令和 7年 4月1日	現在に至る

(事)は事務取扱

◇ 次	長(専任	E)			(令和7年4月1日現在)
歴	代	氏	名	就任年月日	退任年月日
初	代	大 渕	聡	平成30年 4月 1日	平成31年 3月31日

 ◇ 八雲消防署長
 (令和7年4月1日現在)

 歴
 代
 氏
 名
 就任年月日
 退任年月日

V XXIIIIXAX			
歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退任年月日
初代	小林清	昭和27年 4月 1日	昭和31年 2月29日
二代	髙 地 俊 弥	昭和31年 4月 1日	昭和38年11月30日
三代	水野諄朔	昭和38年 3月26日	昭和46年 6月14日
四代	村 林 榮三郎	昭和46年 6月15日	昭和55年3月31日
五代	野 口 精 一	昭和55年4月1日	昭和57年3月31日
六 代	長谷川 和 男	昭和57年 4月 1日	平成 3年 3月31日
七代	水口五郎	平成 3年 4月 1日	平成 7年 6月30日
八代	小 林 顯	平成 7年 7月 1日	平成10年 3月31日
九 代	新 田 義 弘	平成10年 4月 1日	平成11年 3月31日
十 代	佐 藤 太一郎	平成11年 4月 1日	平成15年 3月31日
十 一 代	鈴 木 利 治	平成15年 4月 1日	平成16年 3月31日
十 二 代	長谷川 勝 重	平成16年 4月 1日	平 成 17 年 9月 30日 (町村合併による)
初 代	II .	平 成 17 年 10 月 1 日 (町村合併による)	平成19年 3月31日
二代	板 木 圭 司	平成19年 4月 1日	平成20年 3月31日
三代	工藤信一	平成20年 4月 1日	平成22年 3月31日
四代	大 泉 達 雄	平成22年 4月 1日	平成26年 3月31日
五代	櫻井功一	平成26年 4月 1日	平成28年 3月31日
六代	大 渕 聡	平成28年 4月 1日	平成30年 3月31日
七代	伊丸岡 徹	平成30年 4月 1日	令和 2年 3月31日
八代	高 橋 朗	令和 2年 4月 1日	令和 4年 3月31日
九 代	堤 口 信	令和 4年 4月 1日	令和 5年 3月31日
十 代	河 井 治 彦	令和 5年 4月 1日	令和 7年 3月31日
十 一 代	中 野 悟 司	令和 7年 4月 1日	現在に至る

◇ 熊石支署長・署長 (令和7年4月1日現在)

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退任年月日
初代支署長	濱 野 政 志	昭和49年 4月 1日	昭和62年3月31日
二代支署長	松村勉	昭和62年 4月 1日	平成元年 3月31日
三代支署長	目 谷 洋 一	平成元年 4月 1日	平成 2年 6月30日 (組織変更による)
初 代 署 長	II.	平 成 2年 7月 1日 (組織変更による)	平成 4年 3月31日
二代署長	舩 元 健 司	平成 4年 4月 1日	平成 7年 3月31日
三 代 署 長	岩 野 猛 夫	平成 7年 4月 1日	平成12年 3月31日
四代署長	目 谷 洋 一	平成12年 4月 1日	平成15年 3月31日
五 代 署 長	赤 泊 昌 弘	平成15年 4月 1日	平成17年 3月31日
六 代 署 長	増 田 勝 雄	平成17年 4月 1日	平 成 17 年 9月 30日 (町村合併による)
初 代 署 長	"	平 成 17 年 10 月 1 日 (町村合併による)	平成18年 3月31日
二代署長	杉 村 典 之	平成18年 4月 1日	平成24年 3月31日
三 代 署 長	西田俊三	平成24年 4月 1日	平成26年 3月31日
四代署長	手 塚 剛	平成26年 4月 1日	平成28年 3月31日
五代署長	伊丸岡 徹	平成28年 4月 1日	平成30年 3月31日
六 代 署 長	荒 谷 佳 弘	平成30年 4月 1日	令和 4年 3月31日
七代署長	藤村勉	令和 4年 4月 1日	令和 7年 3月31日
八 代 署 長	関 晃弘	令和 7年 4月 1日	現在に至る

歴代消防団長

◇ 八雲消防団長

(令和7年4月1日現在)

歴	代	氏 名	就任年月日	退任年月日
初	代	米 澤 勇	昭和22年 8月 1日	昭和26年12月14日
<u> </u>	代	佐久間 省 一	昭和26年12月24日	昭和44年 4月21日
三	代	古 河 四 郎	昭和44年 5月 8日	昭和58年 5月31日
四	代	齋 藤 達 繁	昭和58年6月1日	平成 7年 3月31日
五	代	長谷川 信 雄	平成 7年 4月 1日	平成 9年 3月31日
六	代	岡嶋敏夫	平成 9年 4月 1日	平成17年 9月30日 (町村合併による)
初	代	II	平成17年 10月1日 (町村合併による)	平成24年3月31日
1_	代	林昌一	平成24年4月1日	平成 28 年 3 月 31 日
Ξ	代	足 立 守 司	平成 28 年 4 月 1 日	令和 3年3月31日
四	代	水口忠行	令和 3年 4月 1日	現在に至る

◇ 熊石消防団長

(令和7年4月1日現在)

歴	代	氏 名	就任年月日	退任年月日
初	代	篠 原 勇次郎	昭和22年8月20日	昭和26年8月19日
	代	越前谷 市太郎	昭和26年 8月20日	昭和28年12月25日
三	代	岸田長太郎	昭和29年 1月 2日	昭和37年 1月 1日
四	代	土 谷 定 夫	昭和37年 1月 2日	昭和58年 5月 4日
五	代	田村喜代治	昭和58年 5月10日	昭和59年 9月30日
六	代	永 坂 芳 市	昭和59年10月1日	平成 6年 7月31日
七	代	井口常義	平成 6年 8月 1日	平 成 17 年 9 月 30 日 (町村合併による)
初	代	II	平 成 17 年 10 月 1 日 (町村合併による)	平成22年10月31日
	代	島谷喜人	平成22年11月 1日	平成26年 3月31日
Ξ	代	桂川敏幸	平成26年 4月 1日	現在に至る

◇ 八雲町連合消防団長

(令和7年4月1日現在)

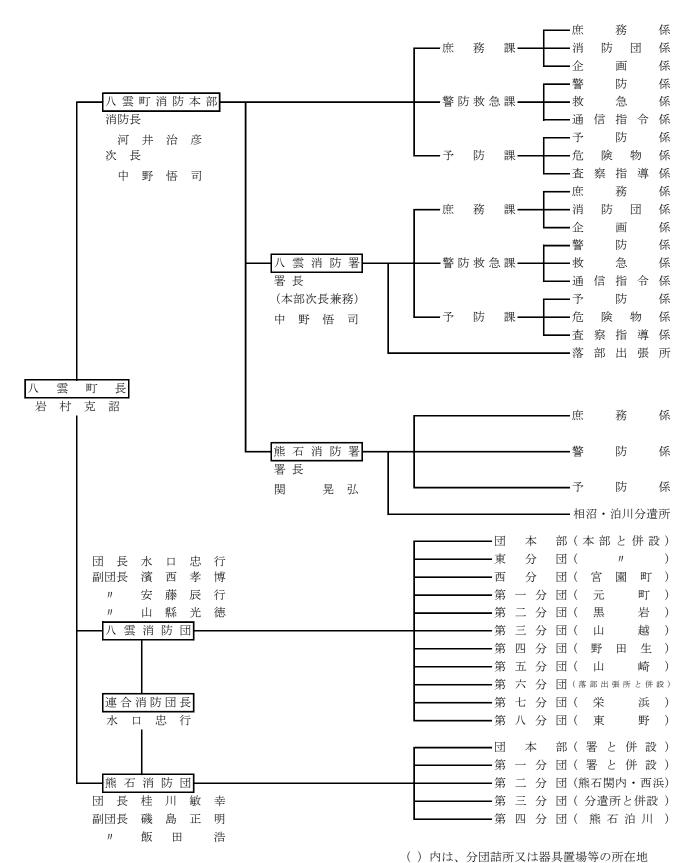
歴	代	氏 名	就任年月日	退任年月日
初	代	岡嶋敏夫	平成17年 10月 1日	平成24年 3月31日
	代	林 昌 一	平成24年 4月 1日	平成 28 年 3月31日
三	代	足 立 守 司	平成28年 4月 1日	令和 3年3月31日
四	代	水口忠行	令和 3年 4月 1日	現在に至る

庶務

1. 消防現況

(1)消防組織

(令和7年4月1日現在)



2. 町勢と予算

(1) 人口及び世帯数の推移

区分		世帯数			人口		その年の動き
年	総数	八雲	熊 石	総数	八雲	熊石	ての中の動き
明治36年	1, 324	1, 324	_	6, 789	6, 789	_	公設八雲消防組創設
大正 8年	2, 535	2, 535	_	16, 213	16, 213	_	町制施行(八雲)
昭和14年	2, 583	2, 583	_	15, 191	15, 191	_	消防組から警防団(八雲)
昭和22年	3, 512	3, 512		19, 227	19, 227	_	警防団から消防団(八雲)
昭和28年	3, 875	3, 875		21, 797	21, 797		消防創設50周年(八雲)
昭和32年	6,612	5, 075	1,537	36, 774	27, 391	9, 383	落部村と町村合併 (八雲)
昭和37年	7, 019	5, 361	1,658	35, 481	25, 656	9, 825	町制施行 (熊石)
昭和49年	7, 702	6, 016	1,686	27, 443	20, 366	7, 077	熊石消防檜山広域(事)に
昭和58年	8, 411	6, 657	1, 754	26, 353	20, 037	6, 316	消防創設80周年(八雲)
平成10年	8, 488	6, 895	1, 593	21,889	17, 889	4,000	開町120年、消防創設95周年(八雲)
平成15年	8,670	7, 115	1, 555	20, 891	17, 232	3, 659	消防創設100周年(八雲)
平成17年	8,603	7, 079	1, 524	20, 331	16, 849	3, 482	10月町村合併 (八雲・熊石)
平成22年	8, 689	7, 242	1, 447	19, 106	16, 142	2, 964	
平成27年	8, 575	7, 226	1, 349	17,673	15, 132	2, 541	町村合併10周年
平成28年	8, 570	7, 242	1, 328	17, 382	14, 916	2, 466	
平成29年	8, 586	7, 296	1, 290	17, 153	14, 789	2, 364	
平成30年	8, 516	7, 270	1, 246	16, 774	14, 522	2, 252	
令和元年	8, 462	7, 229	1, 233	16, 449	14, 252	2, 197	
令和2年	8, 334	7, 157	1, 177	16, 117	14, 031	2,086	
令和3年	8, 089	6, 937	1, 152	15, 578	13, 560	2,018	
令和4年	7, 983	6, 859	1, 124	15, 197	13, 240	1, 957	
令和5年	8,016	6, 922	1, 094	14, 913	13, 057	1,856	
令和6年	7, 994	6, 923	1,071	14, 612	12,830	1, 782	
令和7年	7, 984	6, 948	1,036	14, 421	12, 715	1, 706	町村合併20周年

(毎年4月1日現在の住民基本台帳による数値)

(2) 町勢と消防現勢との比較

(令和7年4月1日現在)

(=) 4	/ · · · / · ·		
町勢 \ 区分	消防職員1人当り(58名)	消防団員1人当り(221名)	消防ポンプ自動車1台当り(10台)
人 口 (14,421人)	248人	65人	1442人
世帯数 (7,984世帯)	137世帯	36世帯	798世帯
面 積 (956K㎡)	16. 4K m²	4. 3K m²	95. 6K m²

(3) 一般会計と消防費との比較(当初予算)

年	一般会計A(百万円)	消防費B(千円)	B/A×100	人口1人当たりの消防費(円)	1世帯当たりの消防費(円)
令和3年度	14, 132	730, 472	5. 2	46, 891	90, 304
令和4年度	14, 439	639, 641	4. 4	42, 089	80, 125
令和5年度	15, 875	565, 183	3.6	37, 898	70, 506
令和6年度	16, 523	640, 365	3. 9	43, 824	80, 105
令和7年度	15, 523	612, 581	4. 0	42, 478	76, 726

(4) 令和5年度消防費決算額の内訳

消防費決算額(千円)	内	訳			
何例其仏异頓(I 口)	人 件 費(千円)	消防費(千円)			
		常備消防費	67, 290		
494, 747	408, 842	非常備消防費	21, 981		
494, 141	400, 042	消防施設費	77, 205		
		合 計	166, 476		

(5) 令和6年度消防費予算額の内訳(当初予算)

消防費予算額(千円)	内	訳			
何例复了异做(10)	人 件 費 (千円)	消防費(千円)		
		常備消防費	61, 283		
640, 265	492, 254	非常備消防費	35, 955		
640, 365	492, 204	消防施設費	50, 873		
		合計	148, 111		

3. 消防職員

(1) 消防職員の定員及び配置

(令和7年4月1日現在)

<u></u>	分	階級別	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
条例定員			階級別定員	級別定員は定めていない					
集	Ē	員	1	12	16	7	4	18	58
	消	防 長	1						1
	本 (消	部 次 長 (防署長兼務)		1					1
		課	# C	1					1
	庶	課長補佐	Ē	1					1
消	務	庶 務 億	Ŕ	1	1	1		2	5
们	課	消防団係	Ŕ		1		1	1	3
防		企 画 6	Ŕ		2	1		1	4
	警	課	Ž	1					1
本	防	課長補仮	ā	1					1
	救	警 防 6	Ŕ		1	1	2	2	6
部	急	救 急 億	Ŕ		2		1	2	5
(署)	課	通信指令负	Ŕ		2			1	3
		課	Ť	1					1
	予	課長補佐	Ē	1					1
	防	予 防 信	Ŕ		1	1		1	3
	課	危険物	Ŕ		2			1	3
		查察指導係	Ŕ		1	1		1	3
熊	署	£	# <u></u>	1					1
石	次	£		1					1
消	庶	務	Ŕ	1		1		2	4
防	予	防	Ŕ		1	1		2	4
署	警	防	Ŕ	1	2			2	5

(2) 職員年齢

(令和7年4月1日現在)

階級別 区 分	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
25歳未満						13	13
25歳以上30歳未満					1	5	6
30歳以上35歳未満				7	3		10
35歳以上40歳未満			8				8
40歳以上45歳未満			5				5
45歳以上50歳未満		5	2				7
50歳以上55歳未満		5					5
55歳以上60歳未満	1	1					2
60歳以上		1	1				2
合 計	1	12	16	7	4	18	58
平均(歳)	56	50. 7	41. 1	32. 9	29. 8	23. 1	38. 9

(3) 職員勤続年数

(令和7年4月1日現在)

階級別 区 分	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
5年未満						15	15
5年以上10年未満					4	3	7
10年以上15年未満			4	7			11
15年以上20年未満			5				5
20年以上25年未満			3				3
25年以上30年未満		5	3				8
30年以上35年未満		4					4
35年以上	1	2	1				4
40年以上		1					1
合 計	1	12	16	7	4	18	58
平 均 (年)	36	31.8	19.9	11	8.5	2.8	18. 3

(4) 職員免許·資格等取得状況

(令和7年4月1日現在)

区 分	司令以上	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
大型自動車免許(1種)	13	16	7	4	7	47
中型自動車免許(1種)	13	16	7	4	7	47
大型特殊自動車免許(1種)	7	6	1		2	16
建設機械技能講習	6	6	1		2	15
建設機械特別教育	10	9				19
第3級陸上特殊無線技士	8	14	4	2	15	43
予防技術資格者	8	6	3	1	1	19
火災調査科修了者	7	4				11
予防查察科修了者		3	1			4
乙種危険物取扱者免状	4	8	3	1	2	18
丙種危険物取扱者免状	2					2
甲種消防設備士免状	1	1				2
乙種消防設備士免状	1	3				4
ガス溶接技能講習	1	1				2
救急救命士	4	13	7	4	10	38
救急Ⅱ課程修了者	2					2
救急標準課程修了者	8	2			4	14
気管挿管認定者	1	13	5	1		20
薬剤投与認定者	4	13	7	4	9	37
処置拡大 2 行為認定者	1	13	7	4	9	34
救助科修了者	9	7				16
警防科修了者		2				2
消防ポンプ操法指導員課程修了者	2	3	1	1		7
大規模災害広域応援指揮課程	4					4
2級小型船舶	3	2				5
潜水士	1					1

(5) 職員教育訓練状況

(令和6年4月1日~令和7年3月31日)

区 分	回数	延時間	延人数
放水・救助訓練	117	243	458
運転訓練	27	27	92

4. 消防団員

(1) 消防団員の定員及び配置

(令和7年4月1日現在)

/ 区分	_	階級別	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計	
	定	員	階級別定員	員は定めてい	は定めていない						
	実	員	2	5	14	14	23	41	122	221	
	寸	本 部	1	3			1 (1)	1 (1)	10 (10)	16 (12)	
	東	分 団			1	1	1	2	6	11	
八	西	分 団			1	1	2	2	7	13	
雲	第	一 分 団			1	1	1	2	8	13	
云	第	二分団			1	1	1	2	7	12	
消	第	三 分 団			1	1	1	3	6	12	
防	第	四 分 団			1	1	1	2	12	17	
190	第	五 分 団			1	1	1	2	3	8	
团	第	六 分 団			1	1	2	4	11	19	
	第	七分団			1	1	1	2	1	6	
	第	八 分 団			1	1	1	2	18	23	
能	団	本 部	1	2						3	
熊石	第	一 分 団			1	1	3	5	9	19	
消	第	二分団			1	1	2	4	4	12	
防団	第	三分団			1	1	2	4	14	22	
नि	第	四分団			1	1	3	4	6	15	

()は女性団員の内数

(2) 団 員 年 齢

(令和7年4月1日現在)

区分	階級別	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
	25歳未満						1	2	3
	25歳以上 30歳未満							2	2
八	30歳以上 35歳未満					1	1	10	12
雲	35歳以上 40歳未満					1	2	17 (1)	20 (1)
消	40歳以上 45歳未満					2	4	24 (4)	30 (4)
	45歳以上 50歳未満			3	3	2	8	18 (3)	34 (3)
防	50歳以上 55歳未満			2	1	1	4	8 (1)	16 (1)
団	55歳以上 60歳未満			3	4	3 (1)	3 (1)	7 (1)	20 (3)
	60歳以上 65歳未満		1	1	2	2		3	9 0
	65歳以上	1	2	1					4
	25歳未満							2	2
AF.	25歳以上 30歳未満								0
熊	30歳以上 35歳未満								0
石	35歳以上 40歳未満							2	2
消	40歳以上 45歳未満				1		1	4	6
	45歳以上 50歳未満					1	5	5	11
防	50歳以上 55歳未満			1	2	2	2	6	13
団	55歳以上 60歳未満		1		1	3	2	6	13
	60歳以上 65歳未満			1		1		4	6
	65歳以上	1	1	2		3	7	4	18
	平 均(歳)	69.5	65	57. 6	53.4	54.9	51	44.9	49

()は女性団員の内数

(3) 団員勤続年数

(令和7年4月1日現在)

	階級別	団 長	副	団 長	分	寸.	長	副分団長	部	長	班	長	団	員	合	計
													4	0	4	0
	未満											1			12	5
															16	(2)
										3					29	(2)
																(1)
									1							(2)
						0		0	4		10					
																15
												1				17
35年以上 40年	未満			1		2		3		1				1		8
40年以上		1		2		2								1		6
1年未満														1		1
1年以上 5年	未満											1		6		7
5年以上 10年	未満											2		9	-	11
10年以上 15年	未満											1		8		9
15年以上 20年	未満							1		1		4		6	-	12
20年以上 25年	未満					1				3		3				7
25年以上 30年	未満									1		2		1		4
30年以上 35年	未満			1				2		4		3		2	-	12
35年以上 40年	未満					2		1		1		1				5
40年以上		1		1		1										3
合 計		2		5		14		14	22	(1)	40	(1)	124	(10)	221	(12)
平 均 (年)		46	4	1.4	:	34. 3		30. 5	2	4. 6	20	0.4	13	3. 6	19	. 2
	分 1年未満 1年以上 5年 5年以上 10年 10年以上 25年 20年以上 25年 25年以上 30年 30年以上 35年 35年以上 40年 40年以上 5年 5年以上 10年 10年以上 25年 20年以上 25年 25年以上 30年 30年以上 35年 35年以上 40年 40年以上 合	1年未満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 10年以上 15年未満 15年以上 20年未満 20年以上 25年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 35年以上 40年未満 40年以上 1年未満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 10年以上 15年未満 20年以上 25年未満 25年以上 30年未満 30年以上 25年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 30年以上 35年未満	日本 1年末満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 10年以上 15年未満 15年以上 20年未満 20年以上 25年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 35年以上 40年未満 40年以上 1 1年未満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 10年以上 15年未満 20年以上 25年未満 25年以上 30年未満 30年以上 25年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満 25年以上 30年未満	日本 日	日 長 副 団 長 副 団 長 副 団 長 和 団 日 長 和 団 日 長 和 団 日 日 年 末 本 二 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	一分 日本 長 副 団 長 別 団 長 別 団 長 別 団 長 別 団 長 別 団 長 分 1年未満 1年以上 5年未満 10年以上 15年未満 15年以上 20年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 1 2 1 2 1年未満 1 40年以上 1 2 1年未満 1 1 2 1 1 35年以上 30年未満 30年以上 15年未満 15年以上 20年未満 15年以上 20年未満 15年以上 20年未満 1 35年以上 30年未満 30年以上 35年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 1 1 35年以上 40年未満 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日 長 副 団 長 分 団 1年未満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 15年以上 20年未満 20年以上 25年未満 25年以上 30年未満 30年以上 35年未満 36年以上 40年未満 1年以上 5年未満 1年以上 5年未満 1年以上 5年未満 1年以上 5年未満 20年以上 15年未満 15年以上 10年未満 15年以上 10年未満 15年以上 10年未満 15年以上 20年未満 20年以上 25年未満 20年以上 25年未満 20年以上 25年未満 20年以上 25年未満 20年以上 25年未満 20年以上 35年未満 30年以上 35年未満 20年以上 35年未満 30年以上 35年未満 20年以上 35年未満 30年以上 35年未満 30年以上 35年未満 30年以上 35年未満 30年以上 35年未満 30年以上 40年未満 40年以上 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	一方	分 団 長 副 団 長 分 団 長 副分団長 1年未満 1年未満 1年以上 5年未満 10年以上 15年未満 15年以上 20年未満 20年以上 25年未満 25年以上 30年未満 3 3 30年以上 35年未満 3 4 35年以上 40年未満 1 2 3 40年以上 1 2 2 1年未満 1 2 2 1年未満 1 2 2 10年以上 15年未満 1 2 2 20年以上 25年未満 1 2 2 20年以上 30年未満 1 2 3 30年以上 35年未満 1 2 3 30年以上 40年未満 2 1 40年以上 40年以上 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	分 団 長 副 団 長 分 団 長 副 分団長 部 1年未満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 4 15年以上 20年未満 3 20年以上 25年未満 3 30年以上 35年未満 3 35年以上 40年未満 1 40年以上 1 1年未満 2 1年未満 1 5年以上 10年未満 1 15年以上 5年未満 1 15年以上 20年未満 1 20年以上 25年未満 1 20年以上 35年未満 1 30年以上 35年未満 1 30年以上 40年未満 2 40年以上 1 6 計 2 5 14 14 2 14 2 3 4 4 2 1 4 4 4 2 5 14 14 2	分 団 長 副 団 長 分 団 長 副分団長 部 長 1年末満 1年以上 5年未満 5年以上 10年未満 3 15年以上 20年未満 4 (1) 20年以上 25年未満 3 3 3 2 30年以上 30年未満 3 4 1 35年以上 40年未満 1 2 3 1 40年以上 1 2 2 1年未満 2 3 1 10年以上 5年未満 3 1 5年以上 10年未満 1 1 1 10年以上 25年未満 1 1 1 20年以上 25年未満 1 2 4 30年以上 30年未満 1 2 4 30年以上 35年未満 1 2 4 35年以上 40年未満 2 1 1 40年以上 1 1 1 40年以上 1 1 1 40年以上 1 1 1 6 計 2 5 14 14 22 (1)	分	分 団 長 副 団 長 分 団 長 副分団長 部 長 班 長 1年末満 1 5年以上 10年末満 2 10年以上 15年末満 3 20年以上 25年末満 4 (1) 10 (1) 25年以上 30年末満 3 30年以上 35年末満 3 35年以上 40年末満 1 1年末満 1 1年末満 1 1年末満 1 1年以上 5年末満 1 1年以上 10年末満 1 15年以上 10年末満 1 10年以上 15年末満 1 20年以上 25年末満 1 20年以上 25年末満 1 20年以上 30年末満 1 30年以上 35年末満 1 20年以上 35年末満 1 20年以上 40年末満 1 20年以上 40年末満 1 20年以上 40年末満 1 20年以上 40年末満 2 30年以上 40年末満 1 40年以上 1 40年以上 1 40年以上 1 40年以上 1 40年以上 1 40年以上 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 3 1 4 1 4<	分 日 長 副 日長 分 日長 副分目長 部 長 班 長 団 1年未満 4 1年以上 5年未満 2 16年以上 10年未満 3 15年以上 20年未満 1 20年以上 25年未満 1 25年以上 30年未満 3 30年以上 35年未満 3 35年以上 40年未満 1 1 2 3 35年以上 40年未満 1 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 4 1 1 5年未満 1 1 0年以上 15年未満 1 1 1 1 2 4 3 3 3 2 4 6 4 4 7 4 4 8 4 4 9 4 4 9 4 4 9 4 <tr< td=""><td> 分</td><td>分 団 長 副 団 長 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 財 長 団 員 合 1年末満 4 0 4 1年以上 5年未満 1 11 5 12 5年以上 10年未満 2 14 (2) 16 10年以上 15年未満 1 1 1 12 (1) 14 20年以上 25年未満 4 (1) 10 (1) 15 29 25年以上 30年未満 3 3 2 5 2 30年以上 35年未満 3 4 1 1 1 8 35年以上 40年未満 1 2 3 1 1 1 1 40年以上 5年未満 1 2 2 1 1 1 1 8 1年以上 5年未満 1 2 2 2 1 1 1 8 1年以上 5年未満 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td></tr<>	分	分 団 長 副 団 長 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 副 分 団 長 財 長 団 員 合 1年末満 4 0 4 1年以上 5年未満 1 11 5 12 5年以上 10年未満 2 14 (2) 16 10年以上 15年未満 1 1 1 12 (1) 14 20年以上 25年未満 4 (1) 10 (1) 15 29 25年以上 30年未満 3 3 2 5 2 30年以上 35年未満 3 4 1 1 1 8 35年以上 40年未満 1 2 3 1 1 1 1 40年以上 5年未満 1 2 2 1 1 1 1 8 1年以上 5年未満 1 2 2 2 1 1 1 8 1年以上 5年未満 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

()は女性団員の内数

(4) 年額報酬

(令和7年4月1日現在)

階	級	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団員
金	額	100, 000	70,000	60, 000	50, 000	40,000	37, 000	36, 500

(5) 出動報酬

(令和7年4月1日現在)

区分	費用弁償の額	摘	要
災害出動等	8,000円	日額	
上記以外の業務	4,000円	日額	
会 議	2,000円	日額	

5. 消防庁舎の現況

八雲町消防本部 (署)



住	所	八雲町内浦町191番地1	竣工	平成23年 8月25日
電	話	0137-63-2686	敷地面積	8, 480 m²
F	A X	v 63-2919	庁舎面積	2, 099. 62 m²
備	考	団本部・東分団待機室併設	東分団ュ	車両格納)

熊石消防署



住	所	八雲町熊石雲石町155番地2	竣工	昭和56年11月27日
電	話	01398-2-3393	敷地面積	1, 436. 1 m²
F	A X	v 2-2003	庁舎面積	613. 95㎡
備	考	団本部・第一分団格納所併	設	

八雲消防署落部出張所



住	所	八雲町落部185番地	竣工	昭和52年12月6日
電	話	0137-67-2049	敷地面積	440. 58 m²
F	A X	v 67-2049	庁舎面積	335. 34 m²
備	考	第六分団格納所併設		

熊石消防署相沼•泊川分遣所



住	所	八雲町熊石相沼町380番地1	竣工	令和4年1月31日
電	話	01398-3-8114	建築延べ 面積	318. 82 m²
F	A X		消防格納所 面積	89. 95 m²
備	考	熊石相沼和みの家及び熊石	消防団第	三分団格納所併設

消防団分団格納所

八雪消防	讨用两分	団格納所		
住	所	八雲町宮園町4番地	敷地面積	898. 23 m²
電	話	0137-62-2931	格納 所	419. 69 m²
竣	工	昭和55年12月22日	建物延面積	419. 69 m²
備	考	N == 16, 61 ===		
		分団格納所	敷地面積	426. 00 m²
<u>住</u> 電	<u>所</u> 話	八雲町元町61番地7 0137-62-3926	敷 地 面 積 格 納 所	426. 00 m 115. 68 m ²
竣	工	平成5年9月22日	建物延面積	115. 68 m ²
備	考	1,000		
八雪消防	· 同第二			
住	<u>所</u>	八雲町黒岩162番地	敷 地 面 積	269. 21 m²
電	話	0137-68-2225	格 納 所	123. 94 m²
竣	工	平成15年12月24日	建物延面積	123. 94 m²
備	考			
		分団格納所		
<u>住</u> 電	<u>所</u> 話	八雲町山越207番地1 0137-63-2004	敷 地 面 積 格 納 所	3, 344. 57 m ² 68. 04 m ²
电		平成元年12月21日	格 納 所 建物延面積	289. 77 m ²
		地域会館併設	是 70 是 面 值	200.11111
	田笹川			
住	<u>加弗四</u> 所	八雲町野田生206番地1	敷 地 面 積	345. 15 m²
電電	話	0137-66-2648	格納所	111. 54 m ²
竣	工	平成2年12月15日	建物延面積	111. 54 m²
備	考			
八雲消防	时第五	分団格納所		
	所	八雲町山崎139番地4	敷地面積	385. 42 m²
電 竣	話	0137-68-2467 平成11年12月3日	格 納 所 建物延面積	115. 67 m ² 115. 67 m ²
 備	<u>-</u> 考	十成11十12月3日	建物	115.67111
		人 四枚 幼形		
<u>八芸何以</u> 住	<u>加弗</u> 所	分団格納所 ┃ 八雲町栄浜113·114番地	敷地面積	310. 00 m²
電	話	0137-67-2932	格納所	66. 10 m ²
竣	I.	昭和63年11月30日	建物延面積	267. 07 m²
備	考	地域会館併設		
八雲消防	団第八	分団格納所		
住	所	八雲町東野155番地3	敷 地 面 積	1, 190. 09 m ²
電	話	0137-66-2152	格納所	82. 62 m ²
竣 備	<u>工</u> 考	昭和59年12月26日(平成14年11月増築) 地域会館併設	建物延面積	348. 55 m²
熊石消災 住	<u>)団弗—</u> 所	分団格納所 ┃ 八雲町熊石関内町83番地	敷地面積	7. 347. 22 m²
電	話	なし	A A A 所	58. 42 m ²
竣	工	令和6年12月10日	建物延面積	278. 24 m²
備	考	熊石関内交流センターまなびあんに併記	元 又	
熊石消防	5団第二	分団 機械器具置場		
住	所	八雲町熊石西浜町80番地1	敷 地 面 積	36. 04 m²
電	話	なし	格納所	10.00 m ²
竣 備	工 者	昭和47年5月5日 敷地は防火水槽用地と一部併用	建物延面積	10. 00 m²
		分団格納所 - 川東町鉄 デキャ河町200乗場は	建	210 002
<u>住</u> 電	<u>所</u> 話	八雲町熊石相沼町380番地1 なし	建物延面積 格納所	318. 82 m ² 89. 95 m ²
竣	工.	令和4年1月31日	ты ля 121	00.00111
備	考	熊石相沼和みの家及び熊石消防署相沼	・ 泊川分遣所に併設	
熊石消防	 5団第三	一		
住	所	人雲町熊石折戸町463番地	敷 地 面 積	$10.00\mathrm{m}^2$
電	話	なし	格 納 所	10.00 m ²
竣	工	昭和47年5月5日	建物延面積	$10.00\mathrm{m}^2$
備	考			
能石消防	闭笆皿	分団格納所		
RR/口1円尺 住	<u>河東四</u> 所	│ 八雲町熊石泊川町171番地1	敷 地 面 積	212. 48 m²
電	話	なし	格納所	166. 50 m²
竣	工	平成元年12月18日	建物延面積	$166.50\mathrm{m}^2$
備	老			

予防

1. 指定防火対象物の状況

						予防	查察									予防	查察	指摘	i内容	ξ						
項	別	防火対象物の用途等	対象物数	查 察 延	実 施 数	指摘文 延	寸象物 数	指摘延件	数消	火 設 備	警 報	設備	避難	設備	防 火	管 理	消防	計画	防炎	関係	点 検	報告	条 例	関係	その	り他
		po y c y q 200 po - y 10 12 - q	八雲 熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲熊	百 八	雲 熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石
1	П	公会堂・集会場	8 1	6	2	1	2	2	3								1	1	1			2				
2	ロ	遊技場・ダンスホール	2	2		1		1													1					
3	П	飲食店	39 2	3	2	2		2													2					
4	4	百貨店・マーケット	31 1	26	1	9		12			1		4		1		3				3					
5	イ	旅館・おル・宿泊所	16 5	12	8	7	7	17	17	2 3	2	4	2	6			3				6	4	2			
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	179	53		19		20		1											19					
	イ	病院・診療所・助産所	3 1	1	2		2		5	4		1		2												
6	ロ	主に入居の伴う社会福祉施設	6 1	6	1																					
	ハ	主に通所の社会福祉施設	18 2	14	2	2	1	2	1					1			1						1			
	11	幼稚園・特別支援学校	1	1																						
	7	小中高・その他各種学校	11 2	11	2		2		4	4		2														
8	8	図書館	2 1	2	2		2		8	4		2		2				2								
9	П	公衆浴場	1																							
1	0	車両の停車場	1																							
1	1	神社・寺院・教会	10 7	2	7		1		2	1												1				
12	イ	工場・作業所	72 3	44	3	19	2	48	6	14 2	14	2			1		1				10	1	7	1	1	
13	イ	自動車車庫	28 2	11	2	2		3		1											2					
1	4	倉庫	98 1	40	2	8	1	10	2	3	. 3										4	1				
1	5	その他の事業場	105 16	34	16	5	5	5	11	1	1	2		2	1	2	2	3			1	1				
16	イ	複合用途(特定を含む)	42 3	28	4	8	3	15	8	2 2		1			2		2			2	8	3	1			
10	口	複合用途(上記以外の対象物)	69 1	21	1	8		11		2	3										4		2			
	合	計	742 49	317	57	91	28	148	67	25 16	24	14	6	13	5	2	13	6	1	2	60	13	13	1	1	

2. 危険物施設の状況

															(令和7年	3月31日現	.仕)
		製造所等の別					貯	直		所				取	扱	所	
					屋	屋	1	屋	地		移		給		第	_	
			計			外		内	下		動				_		
			-			J		9	9		J				種		
						ν		ン	ン		ン				販		
区	分	}			内	₂		Ź	ŋ		ŋ		油	ı	売	般	
	施	設数数	八雲	熊石	八雲	八雲	熊石	八雲	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	八雲	熊石
	ル也	_	153	12	9	14	3	2	42	3	39	2	21	3	1	25	1
許		第 1 石 油 類 (L)	468, 313	13, 500	5, 756				20, 000		16, 000		402, 600	13, 500	200	23, 757	
		アルコール 類 (L)	10, 558		58	10, 500											
可	第4	類 第 2 石 油 類 (L)	2, 261, 377	60, 900	10, 702	259, 000	30,000	40,000	880, 100	3,000	138, 450	7, 400	459, 197	16, 000	1, 500	472, 428	4, 500
数		第 3 石 油 類 (L)	561, 519	263, 000	10, 695	131, 500	23,000		347, 000	10,000	4, 500		11,500	230, 000		56, 324	
量		第 4 石 油 類 (L)	25, 882	1,800	6, 448								5, 400	1, 800		14, 034	
	第5	類 第二種自己反応性物質(kg)	654. 5		400.5											254	
事	設	置許可申請	3	1						1	2		1				
務	変	更 許 可 申 請	4								2		2				
処	完	成 検 査	7								4		3				
理	仮	使 用 承 認															
状		貯 蔵・仮 取 扱															
況	廃山	上届(移動タンクは転出含む)	7	2					6		1	1		1			
	查	察 施 設 延 数	142	7	9	14	1	2	40	1	36	3	17	1	1	23	1
-	良	好 施 設 延 数	119	6	9	8	1	2	39		23	3	15	1	1	22	1
査	不	良 施 設 延 数	23	1		6			1	1	13		2			1	
	不	良 件 数	30	1		6			1	1	20		2			1	
察	不	貯 蔵 取 扱															
		構 造 設 備	10								10						
.116	良	標 識 表 示															
状		定 期 点 検	11			2					8					1	
] ر [消 火 設 備	2								1		1				
況	内	光 仏 民 床															
		維 持 ・ 管 理	7	1		4			1	1	1		1				
	訳	そ の 他															

3. 中高層建築物現況 (15m以上)

(令和7年3月31日現在)

	用	į	金	別			棟 数
5	項	П	共	同	住	宅	3
6	項	1	病			院	1
7		項	学			校	2
15		項	事	務	所	等	1
	合			計			7

4. 各種届出等事務処理状況

(令和7年3月31日現在)

E		方	γ̈́I		Ý	肖	灯	重	[5		4		3	なく	帮	E												
区	行	大 	言	方 十		防		k	タタ		重 介 修	 亡	信															
	£	里	画				画 用		‡	Ţ	复	泉	医 生		重臣	т.	55	Ę										
	į	当		成										設備				設 備		Ł	牧 仮		貝	宁				
		解	3					等		ブ	月	Ħ	耳	菱 文		莆	訂	E										
分			5	だ更し	検		츷		厚 女		打 等	及 	<u>4</u>															
),		届		届		查		届		届		届		届		月												
合 計	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石												
	39	5	75	7	23		2	1	23		47	2	28	1	2													

5. 避難訓練実施状況

			避	難	消	火			参	加
Į	頁	防火対象物別	訓	練	訓	練	懇認	淡会	人数	
			八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石	八雲	熊石
1	口	公会堂・集会場	6	1	4	1			56	5
2	П	遊技場・ダンスホール	2		1				9	
3	П	飲食店								
4	4	百貨店・マーケット	21		6				212	
5	イ	旅館・ホテル	5	2	3	2			53	5
Э	П	共同住宅	2						70	
	イ 病院・診療所		2	1	2				85	23
	口	児童・老人福祉施設	14	3	7	2			786	272
6	ハ	入所を要しない老人福祉施 設・保育所	18	4	8	3			493	65
	11	幼稚園・特別支援学校	4		1				155	
	7	小中高・その他各種学校	20	3	2	1			2, 110	151
8	3	図書館	2	1	2	1			10	1
1	1	神社・寺院・教会等	1	3	1	3			10	5
12	イ	工場・作業場	2		1				199	
1	4	倉庫								
1	5	事業場	10	1	9	1			276	3
16	イ	複合用途(特定を含む)	10	3	4	1			44	7
そ(の他	(各町内会、婦人消防クラブ等)	1		1				21	
		合 計	120	22	52	15			4, 589	537

6. 建築同意の状況

(1) 建築同意処理状況

(令和7年3月31日現在)

\ 区	/ 分		月	別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	同意延面積(m²)
同		意	件	数	4	9	12	2	7	3		6	3	6	8	1	61	30, 207. 69
棟				数	4	15	17	2	7	3		9	3	9	11	1	81	30, 207. 69
新				築	1	13	8	1	4	3		6	1	2	8	1	48	12, 524. 86
増		改		築	1												1	34. 93
そ		の		他	2	2	9	1	3			3	2	7	3		32	17, 647. 90
構	耐			火			1										1	1, 260. 38
造	準	ī	付	火									1	1			2	3, 612. 67
	木			造	1	3	4		3	3		2		1	7	1	25	4, 540. 28
別	そ	0	D	他	3	12	12	2	4			7	2	7	4		53	20, 794. 36
	物	品具	反 売	業														
	共	同	住	宅	1	5	6		4			4	1	5	3		29	13, 714. 36
	病	院 •	診頻	逐所														
用	老	人福祉	止施言	少 等														
	児i	童養 譚	養施 i	少 等														
	学			校														
	寺			院														
途	エ			場	1		1						1				3	3, 291. 99
	車			庫			2										2	388. 58
	倉			庫					1					1			2	527. 82
	事	務	所	等			1		1								2	992. 96
別	特	定 複	合用	建			1			1				1			3	1, 589. 96
	非生	特定剂	复合月	用途	1	1	3	1				1	1	1	1		10	5, 558. 79
	そ	0	D	他	1	9	3	1	1	2		4		1	7	1	30	4, 143. 23
	合			計	4	15	17	2	7	3		9	3	9	11	1	81	30, 207. 69

(2) 建築通知受理状況

区	分	月	別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	通知延面積(㎡)
通	知	件	数	1	1		2	2	1	1	2		4	2	4	20	5, 419. 05
エ	新		築		1		1	2	1	1	2		5	2	4	19	5, 180. 32
事	増	改	築														
別	そ	0)	他	1			1									2	238. 73

7. 消防協力団体の概況

(1) 消防後援会

(令和7年3月31日現在)

		名	称			
八雲町	消防後	後援会連絡協議会				
八	雲	消防後援会	黒	岩	消防後援会	
山	越	消防後援会	野 田	生	消防後援会	
山	崎	消防後援会	落	部	消防後援会	
栄	浜	消防後援会	東	野	消防後援会	

(2) 婦人消防防火クラブ

(令和7年3月31日現在)

名	称	設立年月日	会員数
山崎	婦人消防クラブ	昭和40年 3月26日	4
入 沢	婦人消防クラブ	昭和41年 2月24日	17
内 浦 町	婦人消防クラブ	昭和41年 3月29日	5
本 町	婦人消防クラブ	昭和42年 2月19日	8
あずま会	婦人消防クラブ	昭和42年 5月14日	67
末広町	婦人消防クラブ	昭和43年 3月 1日	35

[※]熊石婦人防火クラブは令和6年9月30日で解散。

(3) 防火協力団体

(令和7年3月31日現在)

名称	設立年月日	会員数
八雲町危険物安全協会	昭和40年 5月12日	34
八雲町防火管理者協会	昭和40年 6月28日	33
八雲町消防設備協会	昭和60年 1月26日	13
八雲町熊石危険物安全協会	平成元年 4月 1日	9

(4) 自衛消防隊

名	称	設	備	結成年月日	隊員数
航空自衛隊八割	雲分屯基地	水槽付消防ポ 屋外消火栓	ンプ自動車 1台 14基	昭和52年 1月20日	5
ヤマハマリン北海道製	造株式会社	屋外消少	火 栓 9 基	昭和61年 7月 1日	48

災害

1. 火 災 概 況

(1) 火災統計

(令和6年1月~12月)

-							(令和6年	三1月~12月)
	ii)	地 域	八雲	地域	熊石	地域	Ī	H
		建物火災	:	2		1		3
令 和	6 年	林野火災						
13 V.H	0 +	車両火災		1				1
出水	件 数	船舶火災						
ЩХ	11 %	航空機火災						
		その他の火災		1				1
		計	4	4		1		5
			棟 数	面積㎡	棟 数	面積㎡	棟数	汁 面積㎡
	火	全 焼	1	278. 44			1	278. 44
焼	元	半焼						
損	棟	部分焼						
棟	1米	ぼや	1		1		2	
数		小 計	2	278. 44	1		3	278. 44
及		全 焼						
び	延	半焼						
面	焼	部分焼						
積	棟	ぼや						
		小 計						
	合	計	2	278. 44	1		3	278. 44
		建物	5, 9	32			5,	932
+	昌	内 容 物	1, 0					012
1. 信	員 等 質	車両	23,	500			23,	500
往	'E	爆 発						
(手	·円)	その他		444				444
		計	30,					444
				1		1		2
罹 —	火	1		5	-	1		6
死傷	災 世 帯 数 災 者 数 傷 者 番 傷 者 番					1		1
建物ル	- 災1佐当り	の焼損面積	130	. 22				. 22
		の損害額		· <u>22</u> 1千円				· 22 1千円
		の損害額		98円			-	98円
		の損害額		73円			-	73円
		•	•		1		<u> </u>	

()内は焼損表面積

月	建			焼	損		程	厚	至		林	車	船	そ	焼損建			損	害	額		罹	罹	死	傷	
	物		火	元	棟		五	正)	焼	棟	野	両	舶	の	(n ()内は焼				(千円)		災世	災			出火原因
	火	全	半	部分	ぼ	爆	全	半	部分	ぼ	火	火	火	0)	火 元	延 焼	建	収容	爆	その	合	帯	者			山
目	災	焼	焼		や	発	焼	焼	焼	Þ	災	災	災	他	棟	棟	物	物物	発	他	計	数	数	者	者	
3月29日	1				1													294			294					何らかの原因によりソリッドステートコンダクタ 内部で絶縁不良が生じ、制御盤の合成樹脂ケース の溶融損傷が起こったもの
4月4日	1	1													278. 44		5, 932	718			6, 650	1	5			チャッカマンで固形燃料に火を点け放置したこと により何らかの原因で周りの物品に着火し延焼し た
5月12日														1												敷地内にてゴミ焼きを行い、火を点けたままその 場を離れたことにより、火源が風に煽られ周囲の 枯草に着火した
10月22日												1								23, 500	23, 500					不明
11月23日	1				1																	1	1		1	不明
合 計	3	1			2							1		1	278. 44		5, 932	1, 012		23, 500	30, 444	2	6		1	

(3) 災害出動状況 (令和6年1月~12月)

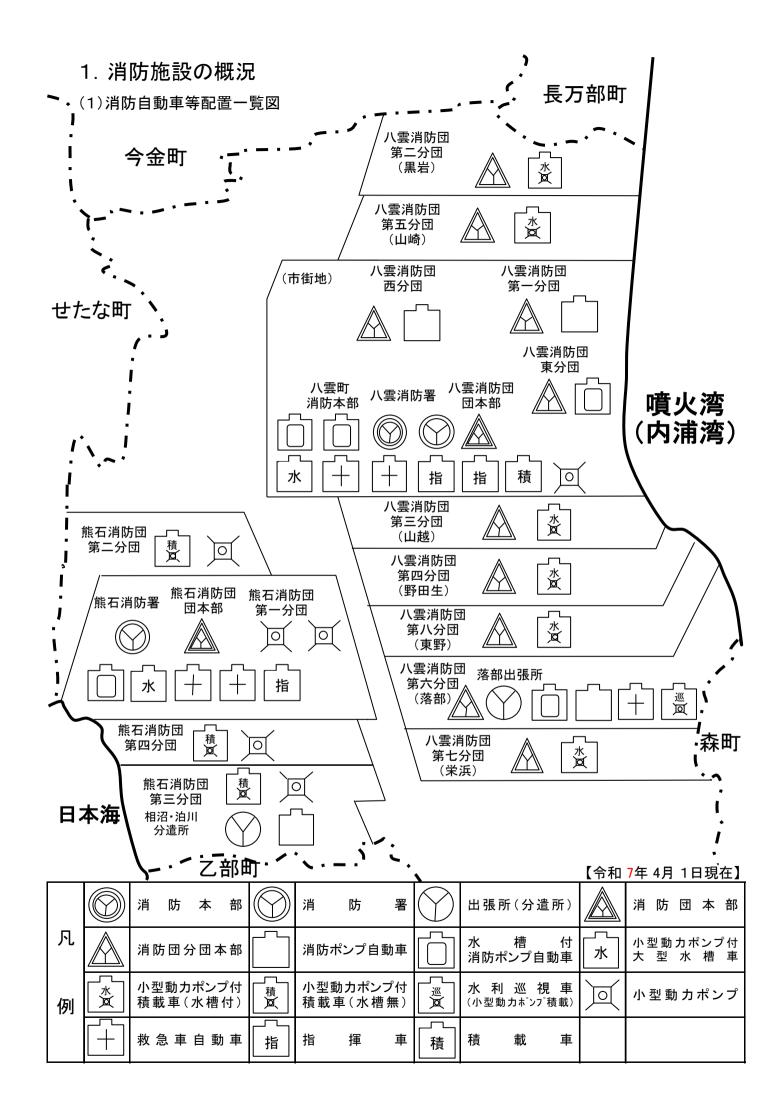
番	発 生	発生	覚 知	《存任则	ш %	- de			車両			出動延	べ人員 (人
番号	場所	年月日	時間	災害種別	用途	内容	タンク車 さ		タンク重	ポンプ車	看載 重	署	団 団
1	熊石	1月1日	16:45	<u></u> 警戒出動	その他	 津波注意報に伴う警戒出動	777	1	/ / -	N. V. 4	頂郵子	2	
2	八雲	1月4日	18:41	調査出動	その他	火事騒ぎによる出動	2	2				12	
3	八雲	1月30日	8:52	調査出動	店舗	自動火災報知機発報による調査出動	1					4	
4	八雲	2月6日	7:44	調査出動	保育所	自動火災報知機発報による調査出動	1					3	
5	八雲	3月11日	18:54	調査出動	工場	火事騒ぎによる出動	2	1		1	1	14	
6	八雲	3月17日	14:07	警戒出動	その他	交通事故に伴う油漏れ警戒出動	1	1		1	1	4	
7	八雲	3月29日	5:13	調査出動	病院	自動火災報知機発報による調査出動	1	1				1	-
8	八雲	4月3日	17:57	調査出動	その他	119番調査出動		1				1	
9	八雲	4月9日	18:13	警戒出動	その他	火災後の再燃による出動	1	2				7	
10	八雲	4月16日	15:48	警戒出動	その他	交通事故に伴う警戒出動	1					4	
11	八雲	4月10日	13:50	調査出動	住宅	緊急通報入電に伴う調査出動	1	1					
	·				·		1	1				1	
12	八雲	5月13日	3:30	警戒出動	その他	大雨による河川増水警戒出動	1	1				3	
13	·	5月17日	10:30	調査出動	その他	火事騒ぎによる出動	1	1				7	
14	八雲	5月28日	3:50	調査出動	店舗	自動火災報知機発報による調査出動	1	2				9	
15	熊石	6月9日	19:20	油処理	住宅	ホームタンクからの油漏れによる出動		1				1	
16	熊石	6月10日	8:30	油処理	住宅	ホームタンクからの油漏れ処理		1				2	
17	熊石	6月12日	8:30	油処理	住宅	ホームタンクからの油漏れ処理		1				2	
18	熊石	6月17日	8:30	油処理	住宅	ホームタンクからの油漏れ処理		1				2	-
19	八雲	6月28日	15:16	警戒出動	その他	交通事故に伴う油漏れ警戒出動	1					4	-
20	八雲	7月8日	16:08	支援出動	その他	ドクターへリ現場支援による出動		1				3	
21	八雲	7月8日	20:37	調査出動	住宅	住宅用火災警報器発報による調査出動		1				2	
22	八雲	7月9日	8:43	調査出動	共同住宅	住宅用火災警報器発報による調査出動	1					3	
23	八雲	7月18日	15:33	調査出動	住宅	緊急通報入電に伴う調査出動		1				2	
24	八雲	7月19日	7:22	調査出動	共同住宅	住宅用火災警報器発報による調査出動		1				3	
25	八雲	7月20日	15:36	調査出動	加工場	自動火災報知機発報による調査出動	1					4	
26	八雲	7月23日	17:57	油処理	その他	油漏れによる出動	1					3	
27	八雲	7月28日	13:18	調査出動	その他	火事騒ぎによる出動	1	2	1	2		10	
28	八雲	8月1日	10:42	調査出動	その他	ゴミ焼きによる調査出動		1				2	
29	八雲	8月6日	0:02	警戒出動	その他	火災警戒による出動	1					4	
30	八雲	8月6日	12:10	調査出動	住宅	住宅用火災警報器発報による調査出動		1				2	
31	八雲	8月10日	19:37	調査出動	病院	自動火災報知機発報による調査出動	1					4	
32	八雲	8月11日	15:15	調査出動	寄宿舎	自動火災報知機発報による調査出動	1					3	
33	熊石	8月22日	22:00	警戒出動	その他	大雨による警戒出動		1				2	
34	八雲	8月23日	4:29	火災誤報出動	住宅	誤報による火災出動	2	1		2	1	10	
35	八雲	8月25日	10:38	油処理	その他	交通事故に伴う油処理	1					4	
36	八雲	10月6日	18:19	調査出動	その他	火入れ調査出動	1					5	
37	八雲	10月9日	11:50	警戒出動	その他	油漏れによる出動		1				3	
38	熊石	10月24日	11:00	調査出動	その他	自動火災報知機発報による調査出動		1				2	
39	八雲	11月5日	22:50	調査出動	住宅	自動火災報知機発報による調査出動		1				2	
40	八雲	11月11日	17:25	調査出動	その他	火災入電に伴う調査出動	1					4	
41	八雲	11月15日	10:08	調査出動	その他	油漏れによる出動	1					4	
42	熊石	11月23日	18:50	調査出動	共同住宅	火災調査出動		1				2	
43	八雲	11月24日	11:46	調査出動	その他	火災入電に伴う調査出動		1				3	
44	八雲	11月26日	1:50	調査出動	工場	自動火災報知機発報による調査出動	1					3	
45	八雲	11月27日	15:55	調査出動	住宅	住宅用火災警報器発報による調査出動	1					4	
46	八雲	12月2日	6:22	調査出動	住宅	自動火災報知機発報による調査出動		1				2	
47	八雲	12月8日	10:36	調査出動	住宅	安否確認による出動	1	1				7	
48	八雲	12月18日	6:44	調査出動	工場	自動火災報知機発報による調査出動	1					4	
49	八雲	12月20日	7:53	調査出動	住宅	住宅用火災警報器発報による調査出動		1				2	
50	八雲	12月27日	9:18	調査出動	店舗	自動火災報知機発報による調査出動	1					4	
51	八雲	12月31日	22:19	調査出動	事業所	自動火災報知機発報による調査出動	1	1				7	
	1		<u> </u>	1	<u> </u>	D 合 計	32	35	1	5	2	202	

この統計には救急・救助出動は含まない。

(4) 過去10年間の火災統計

区	分	火		Ŋ	K	災		内	Ē	沢		建物	林 野	
		災	建	書 书	勿少	火	災	車	船	林	そ	焼損面積		損害額
		件	全	半	部	ぼ	爆	両	舶	野	の	(m^2)		(千円)
年・地域		数	焼	焼	分焼	や	発	火災	火災	火災	他	()内は 焼損表面積	(a)	
1 201-34	八雲	14	1	ŊĞ	2	1	1	4	· 人	火	5	298. 44	(4)	2, 906
平成26年	熊石	1									1	(2. 25)		,
		1									1			
平成27年	八雲	8	1					2			6	33. 81		376
	熊石	1	1									217. 08 (344. 25)		8, 125
亚己20年	八雲	4	1			1		1			1	86. 47 (0. 12)		840
平成28年	熊石	2	1			1						121. 5		3, 866
T-400/T	八雲	8	1	1				1		2	3	816. 54	35	14, 456
平成29年	熊石	2				1					1			7
	八雲	15	3	1	2	2		2	1		5	1331. 628 (0. 8)		59, 763
平成30年	熊石													
令和元年	八雲	13	2		3			3			5	342. 95 (33. 72)		9, 604
13/11/26 1	熊石	3				1		1			1	(0.50)		177
令和2年	八雲	12	3 ②	1)		2		3			4	596. 77		60, 907
17 182 1	熊石													
令和3年	八雲	7	2		1	1		1			2	996. 18 (1. 60)		11, 141
13 440-4-	熊石													
<u></u>	八雲	12	1		1	1		1			8	207. 32		21, 163
令和4年	熊石													
令和5年	八雲	3				1					2	(0. 1275)		126
13 4.H O - H-	熊石													
△₹nc左	八雲	4	1			1		1			1	278. 44		30, 444
令和6年	熊石	1				1								

警防



(2) 消防機械現勢表

\	区分			機関		ポンプ(メーカー型式)及び性	能	機関
所属	· 配置	名称	消防自動車の車名・形状	出力 (PS)	購入年月日	メーカー型式	級別	出力 (PS)
		タンク1号車	三菱ファイター(水2,000キ゚ネ゚) 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型	220	H11. 12. 7	日本機械R3 2段バランスタービン	A-2	
		タンク2号車	日野(水2,000%) CAFS搭載 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型	240	H28. 3. 10	森田MZI	A-2	
		大型水槽車	いすゞ(水10,000ぱ゚) 大型水槽車 小型動力ポンプ積載	216	R2. 3. 12	トーハツVF63AS-Ti	B-2	30
消		救急3号車	トヨタ救急車(ハイメディック) 高規格救急車	160	R5. 3. 10			
113	八雲消防署	救急2号車	トヨタ救急車(ハイメディック) 高規格救急車	151	H27. 3. 20			
		指揮車1	トヨタハイエース	151	H29. 12. 14			
		指揮車2	トヨタラント゛クルーサ゛ーフ゜ラト゛	204	R5. 3. 5			
防		積載車	F399° 1†	110	Н30. 11. 28			
190		小型動力ポンプ			H26. 6. 25	トーハツVF63AS-Ti	B-2	30
	落 部 出 張 所	落部タンク車	日野レンジャー(水2,000ポス) 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型	230	H20. 11. 12	日本機械P3 2段バランスタービン	A-2	
	***************************************	救急1号車	トヨタ救急車(ハイメディック) 高規格救急車	151	H24. 11. 21			
		タンク車	日野(水5,000兆) 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型	390	H10. 10. 30	森田バランスタービン	A-2	
署		大型水槽車	日野プロフィア(水9,300゚ピ。) 小型動力ポンプ付水槽車	320	R3. 3. 29	トーハツVF63AS-TI	B-2	30
	熊石消防署	指揮車	トヨタハイエースワコ゛ンGL	151	H23. 12. 22			
		救急1号車	トョタ救急車(ハイメディック) 高規格救急車	151	R2. 1. 24			
		救急2号車	トヨタ救急車(ハイメディック) 高規格救急車	151	H28. 12. 15			
	団 本 部	軽可搬消防ポンプ			H15. 1. 10	トーハツV1001	D-1	
八	東 分 団 (市街地)	タンク車	日野(水2,000%%) 水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型	240	H31. 2. 13	森田MZ1	A-2	
	西 分 団 (市街地)	ポンプ車	いすゞエルフ 消防ポンプ自動車CD- I 型	150	R4. 1. 14	モリタMZ1	A-2	
雲	第一分団(市街地)	ポンプ車	日産コンドル 消防ポンプ自動車CD-Ⅱ型	165	НЗ. 12. 26	森田ME-5 2段バランスタービン	A-2	
	第 二 分 団 (黒 岩)	小型動力ポンプ付積載車	三菱キャンター 水槽付(水1,000゚゚゚゚。)	140	Н9. 2. 27	シバ ウラSF755E	B-2	54
消	第三分団(山越)	小型動力ポンプ付積載車	三菱キャンター 水槽付(水1,000゚¦゚ミ)	140	H8. 2. 23	シバ ウラSF755E	B-2	54
113	第四分団(野田生)	小型動力ポンプ付積載車	三菱キャンター 水槽付(水1,000゚¦゚ミ)	140	H12. 3. 30	シバ ウラSF755EH	B-2	54
防	第五分団(山崎)	小型動力ポンプ付積載車	三菱キャンター 水槽付(水1,000%)	140	H10. 3. 9	シバウラSF755EH	B-2	54
193	第六分団	ポンプ車	いすゞエルフ 消防ポンプ自動車CD- I 型	150	R3. 3. 15	モリタMZ1	A-2	
団	(落部)	水利巡視車	スペールナンハー 小型動力ポーンプー 積載	48	H20. 7. 10	วีt ั้ ๆ	B-3	52
ŭ	第七分団(栄浜)	小型動力ポンプ付積載車	三菱キャンター 水槽付(水1,000ッッ゚)	140	H11. 3. 10	シバ ウラSF755EH	B-2	54
	第八分団(東野)	小型動力ポンプ付積載車	日野デュトロ 水槽付(水1,000ッッ゚)	130	H13. 3. 27	シバ ウラSF755EH	B-2	54
	第一分団	小型動力ポンプ			H8. 12. 18	トーハツ 片吸込タービンV56BS型	B-3	51
熊		小型動力ポンプ			R6. 8. 27	トーハツ VF63AS-R	B-2	30
石	第二分団	小型動力ポンプ付積載車	いすゞエルフ	110	R2. 2. 25	トーハツVF63AS-R	B-2	30
		小型動力ポンプ			Н9. 9. 29	トーハツ 片吸込タービンV58AS型	B-3	40
消		小型動力ポンプ付積載車	F399° 1†	109	H17. 2. 14	トーハツ 片吸込タービンV58AS型	B-3	40
防	第三分団	小型動力ポンプ	H 102 - 2)		H29. 8. 1	トーハツVF63AS-R	B-2	30
		ポンプ車	日野デュトロ 消防ポンプ自動車CD- I 型	150	H23. 12. 27	森田ME-5 2段パランスターピン	A-2	110
団		小型動力ポンプ			H10. 6. 20	トーハツ 片吸込タービンV50CS型	B-3	40
	第四分団	小型動力ポンプ付積載車	いすゞエルフ	110	Н30. 12. 6	トーハツVF63AS-R	B-2	30

(3) 消防機器現有数

(令和7年4月1日現在)

配置						八	雲							J	熊石			
機器名	本署	団 本 部	東 分 団	西分団	第一分団	第二分団	第三分団	第四分団	第五分団	第六分団	第七分団	第八分団	署	第一分団	第二分団	第三分団	第四分団	合 計
発電照明装置	5	2	1	2	1	2	2	2	2	1	2	1	1	<u> </u>	1	1	1	27
泡消火器具	2				1								2					5
化学消火薬剤(゚゚゚゚゚)	520				60								260					840
油中和剤(%%)	566												65					631
流出油吸着剤(枚)	1,027		10	80	80	20	20	100	20		17	20	200					1, 594
ジ゛ェットシューター	44												46					90
オイルフェンス(m)	160																	160
簡易水槽	3					1	1	1	1	1	1	1	1	1				12
水難救助用ゴムボート	1																	1
消防用ホース・呼称65	173		50	56	57	39	43	43	48	55	49	48	162	31	62	85	45	1, 046
消防用ホース・呼称50	182												57					239
消防用ホース・呼称40	5						5		5									15

(4) 消防水利施設

(令和7年4月1日現在)

	種別		消	1 火	全				防	火 水	槽				
			公	設	利	、設		2	公 記	n. X		私	設		計
ļ	区 分	単	П	双口	単	<u>í</u> 🗆	100㎡以上	60㎡以上 100㎡未満	40㎡以上 60㎡未満	(40㎡未満)	防火水槽 の内 耐震性 貯水槽	40㎡以上 60㎡未満	(40㎡未満)		μΙ
	東·西·第一分団地区		146	1	3	4		6	24	(5)	6 (60 m³) (40 m³)	1	(6)	194	(11)
	第二分団地区		13						1	(9)	1 (40 m³)		(1)	14	(10)
	第三分団地区		12		2				1	(7)	1 (40 m³)		(1)	15	(8)
八	第四分団地区		11		2				2	(10)	1 (40 m³)		(2)	15	(12)
雲	第五分団地区		9						1	(6)	1 (40 m³)		(1)	10	(7)
	第六分団地区		32						4	(5)	1 (40 m³)			36	(5)
	第七分団地区		7							(4)				7	(4)
	第八分団地区		7		1				1	(4)	1 (40 m³)		(2)	9	(6)
	第一分団地区	1	(8)	1	1		1		14		1 (100 m³)			27	(8)
熊	第二分団地区	4	(9)						11					15	(9)
石	第三分団地区	5	(7)						10		1 (40 m³)			15	(7)
	第四分団地区	7	(5)						8		2 (40 m³)			15	(5)
	合 計	254	(29)	2	9	4	1	6	77	(50)	16	1	(13)	372	(92)

()内は基準外

通信

1. 消防通信施設

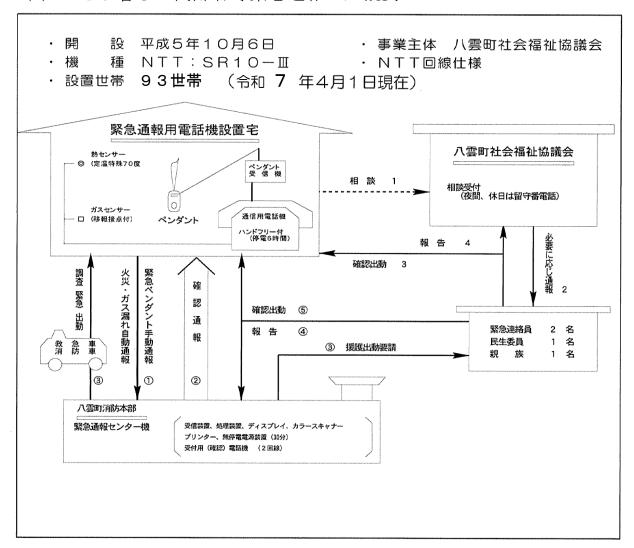
(1) 消防通信施設内訳

(令和7年4月1日現在)

	施設名	計数
Nec	基地局(消防本部20W,熊石消防署20W,落部出張所10W) 活動波2波、主運用波、統制波(3波切替	3
消	基地局(関内簡易無線5W) 活動波1波	1
防	移動局(車載型5W) 常備車両15台 非常備車両15台	30
無	移動局(携帯型2W)	18
線	移動局(署活系1W)	35
	移動局(卓上型5W)	1
有	本 統合回線 部 (固定電話とIP電話、および携帯電話を統合した2回線) 指 令	2
線	台 指令署所端末(八雲消防署・熊石消防署・落部出張所)	3
	専用回線 (行政ネット、高速道路、山蕗トンネル非常装置、無線ネットワーク3波)	6
回	ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム	1
線	一般電話回線(FAX含む)消防本部4回線 熊石4回線 落部1回線	9
	公衆電話(第三・七・八分団格納所)	3
携	消防用携帯電話 八雲タンク~1回線	1
帯	救急用携帯電話 八雲救急~2回線 熊石救急~2回線 落部救急~1回線	5
端	タブレット端末 八雲署〜4台 熊石署〜1台	5
末	衛星電話(イリジウム)	3
イ ン 回 _身	火災時職団員招集用一斉メールシステム	1
線ネ	NET119	1
形 ツ ト	職員招集用連絡網システム	1
防 "'		
災行	屋内受信機 60世帯(施設)	
政無		
線	屋内受信機 1,242世帯(施設)	

2. ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム

(1) ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム概要



(2) ひとり暮らし高齢者等緊急通報システム受信状況 (令和6年1月~12月)

											\ ·	1.0	1/.	14/1/
区分	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計
救急車・消防耳	三出動(緊 急 通 報)	1	3	4	3	4	1	2	2	1	1	1	1	24
協力員	理(緊急通報)	1			1									2
誤	報(緊急通報)	1	3	1	1	1	1	1		6	2			17
救急車・消防車	三出動(センサー通 報)											1		1
協力員	四 理(センサー通報)													
誤	報(センサー通報)					1	1	4	2	3				11
相	談													
テスト通	報	3	13	11	1				25		4	42	9	108
電 池 切	れ		1				1				2	3	4	11
その	他													
合	計	6	20	16	6	6	4	7	29	10	9	47	14	174

救急•救助

1. 救急関係の概況

(1) 過去5年間の救急出動の推移

(令和7年4月1日現在人口比) 八雲 12,715 熊石 1,706

年	令和	12年	令和	13年	令和	74年	令和	15年	令和	
区分	八雲地域	熊石地域								
出動件数	812	2件	977	7件	980)件	997	7件	973	3件
山س州州	704件	108件	817件	160件	850件	130件	835件	162件	788件	185件
1 日 平 均 出 動	2. 2	2件	2.6	8件	2.6	8件	2. 7	3件	2.6	6件
件数	1.93件	0.30件	2.24件	0.44件	2.33件	0.36件	2.28件	0.44件	2.15件	0.50件
搬送人員	791	1人	961	人	952	2人	985	5人	927	7人
	688人	103人	809人	152人	826人	126人	824人	161人	748人	179人
人口/搬送人員	19.	6人	15.	2人	15.	7人	15.	1人	15.	5人
	20人	19人	17人	13人	15人	14人	15人	11人	16人	9人

(2) 過去5年間の事故種別出動件数

(令和6年1月~12月)

(2)	~! <u>.</u>	, , , , , ,	1.> 1	1月久7至777日	323711 330						(令:	和6年1月~	~12月)
		年	Ē.	令和	12年	令和	13年	令和	14年	令和	15年	令和	16年
種	別			八雲地域	熊石地域	八雲地域	熊石地域	八雲地域	熊石地域	八雲地域	熊石地域	八雲地域	熊石地域
火			災						[]	[
火			火					1					1
自	然	災	害										
	763	<i>9</i> C	П										
水			難					4	2	4	2		
/1/			天正					1	1	2			
交	通	事	故	3	5	3	9	4	8	4	7	3	4
	,111	7	HX.	32	3	38	1	48		43	4	33	1
労	働	災	害		7	4	4	1	2	1	9	1	3
	1-94			7		4		12		19		12	1
運	動	競	技		Į.		3		[1	4	1
		7474		1		3		1		1		4	
_	般	負	傷	12			24)2	1:		12	
	,,,,,			108	18	99	25	86	16	97	19	106	18
加			害		}		1		1		2		3
				3		1		1		2		3	
自	損	行	為		3		4		3		5		7
				7	1	4		5	1	5		6	1
急			病	45			40		38		79	54	
				401	55	469	71	473	65	511	68	462	81
転	院	搬	送	17			31	26			22		29
				141	31	198	63	215	46	151	71	149	80
医	師	搬	送		L						1		
				1						1		6	1
資	器材	等 輸	送										
				,	,	-	1						
そ	0	0	他		3		1		1		3	7	
				3 83	10	1	<u> </u> 77	7	30	3	97	7	1 73
合			計	704	108	817	160	850	130	835	162	788	185
				704	108	911	100	890	130	899	102	100	199

(3) 事故種別傷病程度数

(令和6年1月~12月)

		ī				1	1	1		1	\ 1	1 4HO++	1/1	.4月)
程度	種別	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	合計
死亡	八雲									3	13			16
9L L	熊石							1			3	1		5
重症	八雲				2	4		24			76	52		158
里	熊石							4			19	17		40
中等症	八雲				8	2	2	31		1	177	95		316
十 守	熊石	1				1		9			40	53		104
軽症	八雲				20	6	1	49	3		177	2		258
鞋	熊石				1			4			17	8		30
その他	八雲													0
て り 他	熊石													0
合	 計	1			31	13	3	122	3	4	522	228		927

(4) 年齢別搬送人員数

(令和6年1月~12月)

年齢	新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	^ ⇒I
地域	0歳	1歳~6歳	7歳~17歳	18歳~64歳	65歳~	合 計
八雲	2	13	12	173	548	748
熊石				18	161	179
合 計	2	13	12	191	709	927

(5) ドクターヘリ区分要請件数

(令和6年1月~12月)

区分地域	救急現場出動	緊急外来搬送	施設間搬送	離陸後キャンセル	合 計
八雲	8	4	7	9	28
熊 石			1	1	2
合 計	8	4	8	10	30

(6) 月別出動件数·搬送人員数

(令和6年1月~12月)

地域	月/	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
八雲	件数	88	45	72	45	60	60	73	80	49	57	52	107	788
八去	人員	85	43	69	43	55	55	74	77	45	53	51	98	748
熊石	件数	12	9	13	15	12	13	22	16	13	21	14	25	185
JK.√□	人員	12	9	13	14	11	13	21	16	13	21	13	23	179
合計	件数	100	54	85	60	72	73	95	96	62	78	66	132	973
口目	人員	97	52	82	57	66	68	95	93	58	74	64	121	927

(7) 管内·管外別搬送人員数

(令和6年1月~12月)

地域	管内に居	住する者	管外に居	住する者	その		合	計	
種別	(八雲)	(熊石)	(八雲)	(熊石)	(八雲)	(熊石)	(八雲)	(熊石)	
火 災	1						1		
人 炎		1						1	
自然									
——————————————————————————————————————									
水 難									
/1. VIII.									
交 通		.3	1	18			3	1	
	13		17	1			30	1	
労 災		5		8		T	1	3	
<i>,, ,</i> ,	4	1	8				12	1	
運動		1		2		Γ		3	
	1		2				3		
一般		15		7		T		22	
,,,,	98	17	6	1			104	18	
加害		1		2		Γ		3	
,,,, , _L	1		2				3		
自損		4		T.		T		4	
	4						4		
急病		95		27				22	
	419	76	24	3			443	79	
その他		90		38		T		28	
	115	75	34	4			149	79	
合 計		25		02		Γ		27	
П П	655	170	93	9			748	179	

(8) 救急講習会実施状況

(令和6年1月~12月)

	受講	回数	参加人員			
	八雲	熊石	八雲	熊石		
普通救命講習	1	1	8	2		
一般救急講習	21	3	307	22		

(9) 救急器具現有数

八雲消防署(令和7年4月1日現在)

品名	数	品名	数
半自動式除細動器	3	血糖測定器	3
自動体外式除細動器(AED)	4	スクープ。ストレッチャー	7
ECG車載モニター	3	ハ゛ックホ゛ート゛	5
人工呼吸器	3	全身ギブス	2
自動心臓マッサージ器	2	減圧式固定器具	5
ハ゛ック <i>ハ゛ル</i> ፓ゛マスク	7	酸素ボンベ(1004本 9.403本 7.500本 3.506本 2013本)	26
喉頭鏡	4	二酸化塩素消毒器	1
ビデオ硬性喉頭鏡	2	オゾン除菌機	2
CO2モニター	3	AEDトレーナー	7
パルスオキシメーター(携帯用)	4	高度救急処置訓練人形	1
吸引器	3	CPR用レサシアン(乳幼児4 大人8)	12
血圧計	10	気道管理トレーナー	1

熊石消防署(令和7年4月1日現在)

品名	数	品名	数
半自動式除細動器	2	血圧計	4
自動体外式除細動器(AED)	1	血糖測定器	2
ECG車載モニター	2	スクープ。ストレッチャー	2
人工呼吸器	2	ハ゛ックホ゛ート゛	2
自動心臓マッサージ器	1	全身ギブス	2
ハ゛ックハ゛ルブ゛マスク	4	減圧式固定器具	4
喉頭鏡	2	酸素ボンベ(1007本 3.506本 208本)	21
ビデオ硬性喉頭鏡	1	オゾン除菌機	1
CO2モニター	2	AEDトレーナー	3
パルスオキシメーター(携帯用)	2	CPR用レサシアン(乳幼児1 小児3 大人4)	8
吸引器	2	高度救急処置訓練人形	1

2. 救助関係の概況

(1) 救助出動の推移

(令和6年1月~12月)

年		ŕ	う和4 ^年	F			ŕ	う和5 ^年	F			ŕ	予和6 [₫]	F	
区分	出動	出動	活動	救助,	出動	出動	出動	活動	救助,	出動	出動	出動	活動	救助,	出動
事故種別	件 数 (件)	人 員 (人)	件 数 (件)	人 員 (人)	車 両 (台)	件 数 (件)	人 員 (人)	件 数 (件)	人 員 (人)	車 両 (台)	件 数 (件)	人 員 (人)	件 数 (件)	人 員 (人)	車 両 (台)
火 災															
交 通 事 故	21	175	2	2	55	28	244	3	9	70	16	134	0	0	40
水難事故	2	17	2	2	6										
風水害等目然災 害															
機械による事故															
建物等による事 故	1	6	0	0	2						1	7	0	0	2
ガス及び酸欠事故															
爆 発 事 故															
その他の事故	2	13	0	0	6	2	16	1	1	4	1	7	1	1	2
合 計	26	211	4	4	69	30	260	4	10	74	18	148	1	1	44

(2) 救助器具現有数

八雲消防署(令和7年4月1日現在)

品名	数	品名	数
油圧ジャッキ	3	バスケット型担架	3
油圧カッター	2	救命索発射銃	1
油圧スプレッダー	2	救助用ブロック	1
手動式油圧ジャッキ	1	救助用縛帯	2
マット型空気ジャッキ	2	救命胴衣	22
へ。タ、ルカッター	1	救命浮環	7
エンシ゛ンカッター	3	救助用足場台	2
チェーンソー	2	空気呼吸器	13
可搬式ウインチ	2	空気ボンベ(FRP49本 スチール25本)	74
かぎ付きはしご	3	ガス検知器	1
二連はしご	3	可燃性ガス測定器	2
三連はしご	4	張力計	1
ワイヤーはしご	1	万能斧	17

熊石消防署(令和7年4月1日現在)

ㅁ	名	数	口口	名	数
油圧ジャッキ		1	バスケット型担架		1
油圧カッター		1	救助用縛帯		5
油圧スプレッダー		1	救命胴衣		33
手動式油圧ジャッキ		2	救命浮環		2
マット型空気ジャッキ		1	空気呼吸器		6
マルチカッター		1	空気ボンバ(FRP19本	スチール11本)	30
エンシ゛ンカッター		1	ガス検知器		1
チェーンソー		1	レスキューウォーター		1
可搬式ウインチ		1	破壊工具 (万能斧等)		9
かぎ付きはしご		1	救助滑車		6
三連はしご		1		•	

太平洋と日本海 二つの海を持つまち



八雲町の「八」と二つの海の「波頭」をモチーフに表現している。中央の小円は、太陽を表し、未来に向かって輝かしい発展をする「八雲町」の明るく元気な姿を力強くアピールしている。

消防統計 令和6年度版

発 行/令和7年 8月

北海道八雲町消防本部 庶務課企画係 〒049-3104 北海道二海郡八雲町内浦町191番地1 TEL 0137-63-2686 FAX 0137-63-2919 e-mail fire119@town.yakumo.lg.jp http://www.town.yakumo.lg.jp/modules/fire/